

# 福津市子ども・若者育成支援 に関するアンケート調査報告書

令和6年10月

福 津 市



# 目次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的.....	1
2 調査の種類と実施方法.....	1
3 配布と回収状況.....	1
4 調査結果の見方.....	1
<b>第2章 調査結果</b> .....	<b>2</b>
1 回答者や家族の状況について.....	2
2 自分の気持ちについて.....	7
3 地域の人との関わりや、地域の居場所について.....	9
4 外出の状況について.....	18
5 生活の悩みの相談について.....	24
6 ヤングケアラーについて.....	27
7 子ども・若者への支援について.....	30
8 「こどもまんなか社会」への意識について.....	32



# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、「子ども・若者育成支援」などに関する計画策定の基礎資料とするため、高校生世代から34歳までの若者に、生活の状況や悩み、子ども・若者への支援に対する考え方などを把握することを目的として実施したものです。

## 2 調査の種類と実施方法

本調査は、次の要領で実施しました。

調査の種類	調査の対象（母集団）	実施方法
若者調査	市内在住の高校生～34歳の方	葉書による案内、WEBによる回収

【調査期間】 令和6年8～9月実施

## 3 配布と回収状況

調査票の配布と回収の状況は次のとおりです。

種類	配布数	回収数	回収率
若者調査	2,500票	380票	15.2%

## 4 調査結果の見方

- タイトルの問番号のMAは複数回答が可能な設問の意味で、記載なしの場合はSA（単数回答）を意味します。
- 数表やグラフにおいては、原則として各集計数の総回答対象者数に対する比率を表示しています。
- クロス集計表の各セルの上段は実数を、下段は比率を表示しています。
- 集計は、小数点以下を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- グラフの性別では、「その他・答えたくない」は少ないため省いています。また、クロス集計表の年齢別の無回答は該当無しで省いています。
- 各設問の選択肢等について、その意味を損なわない程度に表現を簡略化している場合があります。
- 選択肢を複数合わせて表現する場合、『 』を使用しています。

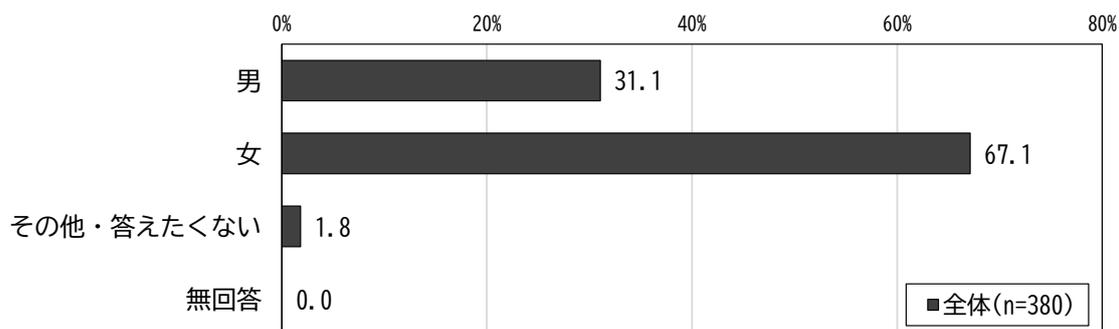
## 第2章 調査結果

### 1 回答者や家族の状況について

#### ①性別

【問1】

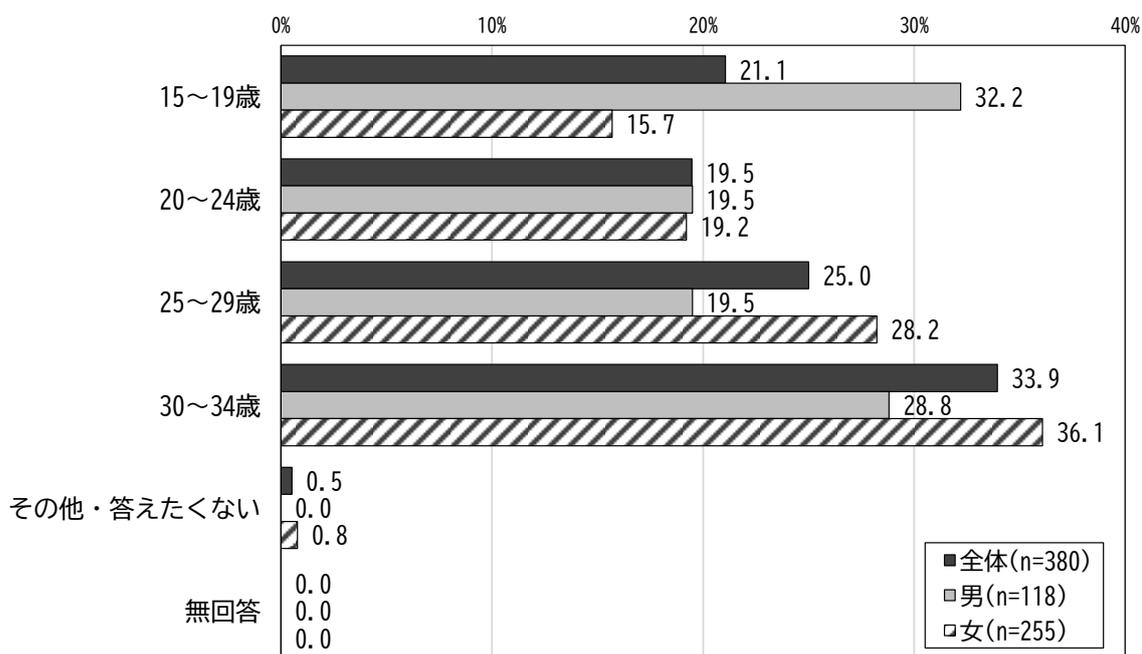
- 「男」が31.1%、「女」が67.1%、「その他・答えたくない」が1.8%で、「女」が「男」の2倍以上となっています。



#### ②年齢

【問2】

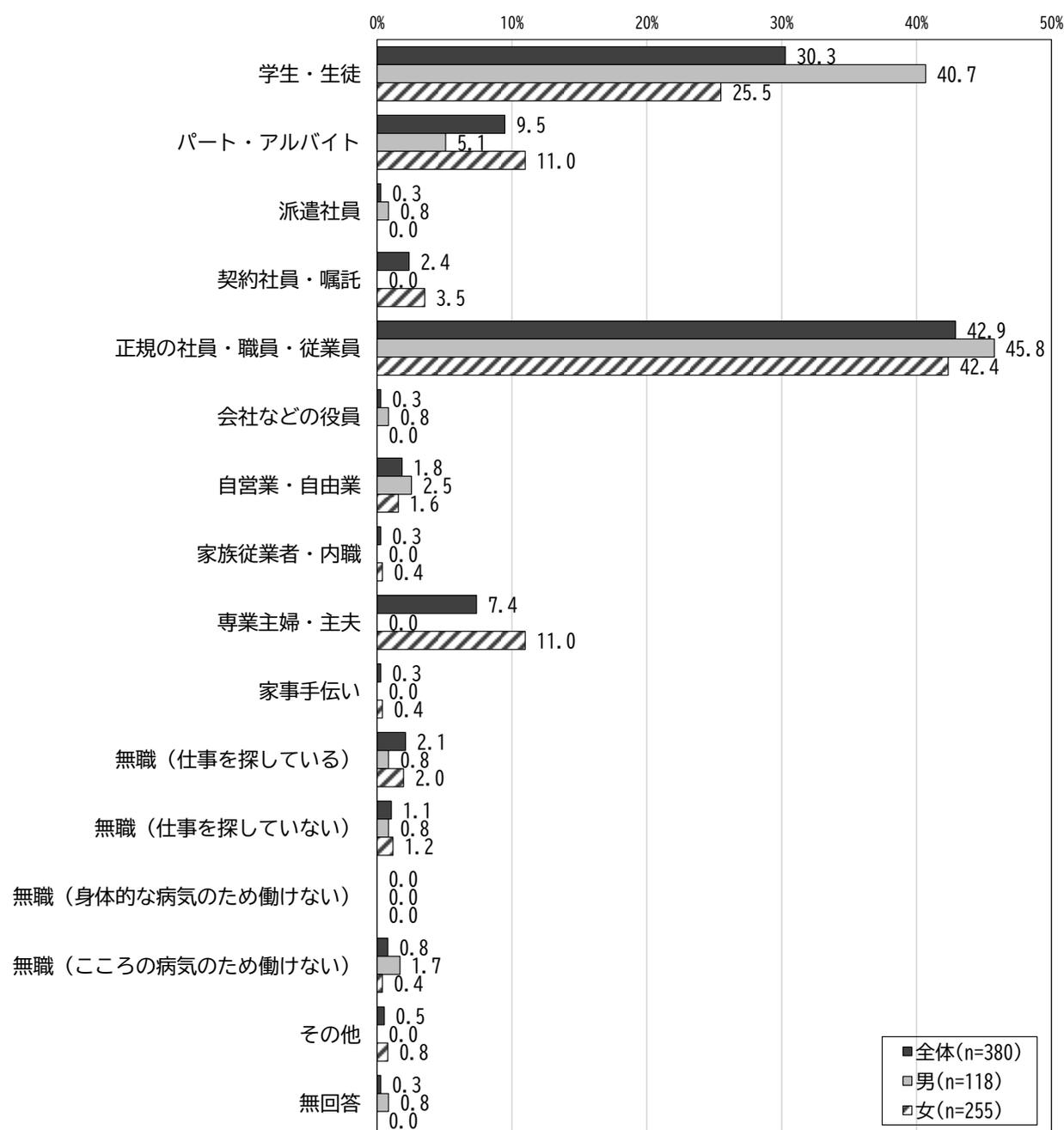
- 「30～34歳」が33.9%、次いで「25～29歳」(25.0%)、「15～19歳」(21.1%)、「20～24歳」(19.5%)となっています。
- “男”は「15～19歳」(32.2%)が、“女”は「30～34歳」(36.1%)が、それぞれ最も高くなっています。



③現在の仕事

【問3】

- 「正規の社員・職員・従業員」が42.9%で最も高く、次いで「学生・生徒」(30.3%)と続き、他は1割を割っています。また、『無職』が合わせて4.0%となっています。
- 性別では、男女ともに「正規の社員・職員・従業員」が4割を超えて最も高く、次いで「学生・生徒」と続きますが、“男”は「15～19歳」が高いことを反映し、およそ4割と高くなっています。また、『無職』は“男”が3.3%、“女”が3.6%となっています。
- 年齢別では、“15～19歳”と“20～24歳”は「学生・生徒」が、“25～29歳”と“30～34歳”は「正規の社員・職員・従業員」が、それぞれ最も高くなっています。また、『無職』は“15～19歳”が2.5%、“20～24歳”が5.5%、“25～29歳”が6.4%、“30～34歳”が2.4%となっています。



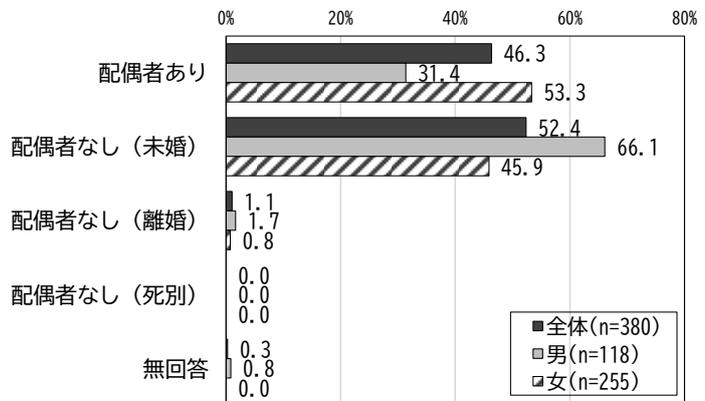
	合計	問3 現在の仕事											
		学生・生徒	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員・嘱託	正規の社員・職員・従業員	会社などの役員	自営業・自由業	家族従業者・内職	専業主婦・主夫	家事手伝い	無職(仕事を探している)	無職(仕事を探していない)
全体	380 100.0	115 30.3	36 9.5	1 0.3	9 2.4	163 42.9	1 0.3	7 1.8	1 0.3	28 7.4	1 0.3	8 2.1	4 1.1
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	76 95.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5
	20～24歳	74 100.0	38 51.4	5 6.8	0 0.0	1 1.4	23 31.1	0 0.0	2 2.7	0 0.0	1 1.4	0 0.0	3 4.1
	25～29歳	95 100.0	1 1.1	11 11.6	1 1.1	5 5.3	57 60.0	1 1.1	2 2.1	1 1.1	8 8.4	1 1.1	3 3.2
	30～34歳	129 100.0	0 0.0	18 14.0	0 0.0	3 2.3	82 63.6	0 0.0	3 2.3	0 0.0	19 14.7	0 0.0	2 1.6
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	合計	380 100.0	115 30.3	36 9.5	1 0.3	9 2.4	163 42.9	1 0.3	7 1.8	1 0.3	28 7.4	1 0.3	8 2.1

	合計	問3 現在の仕事			
		無職(身体的な病気のため働けない)	無職(こころの病気のため働けない)	その他	無回答
全体	380 100.0	0 0.0	3 0.8	2 0.5	1 0.3
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3
	20～24歳	74 100.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0
	25～29歳	95 100.0	0 0.0	1 1.1	1 1.1
	30～34歳	129 100.0	0 0.0	1 0.8	1 0.8
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	合計	380 100.0	0 0.0	3 0.8	2 0.5

#### ④婚姻状況

#### 【問4】

- 「配偶者なし(未婚)」が52.4%、「配偶者あり」が46.3%、「配偶者なし(離婚)」が1.1%となっています。
- 性別では、“男”は「配偶者なし(未婚)」(66.1%)が、“女”は「配偶者あり」(53.3%)が、それぞれ最も高くなっています。
- 年齢別では、“25～29歳”と“30～34歳”は「配偶者あり」が、“15～19歳”と“20～24歳”は「配偶者なし(未婚)」が、それぞれ最も高くなっています。

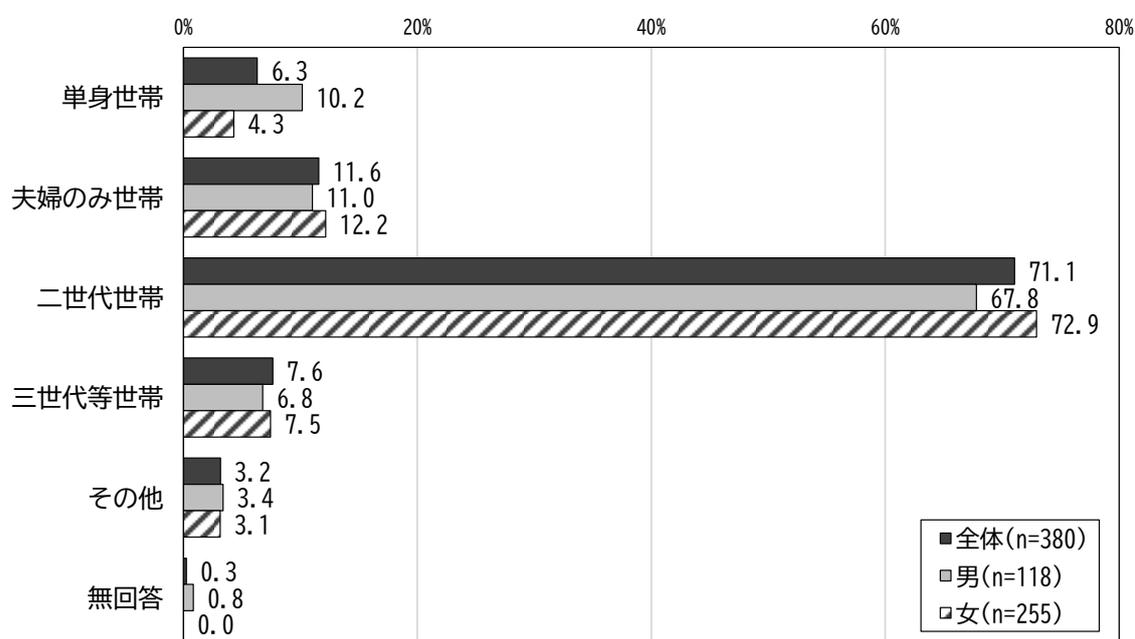


	合計	問4 婚姻状況				無回答	
		配偶者あり	配偶者なし(未婚)	配偶者なし(離婚)	配偶者なし(死別)		
全体	380 100.0	176 46.3	199 52.4	4 1.1	0 0.0	1 0.3	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	1 1.3	78 97.5	0 0.0	0 0.0	1 1.3
	20～24歳	74 100.0	6 8.1	68 91.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	25～29歳	95 100.0	60 63.2	33 34.7	2 2.1	0 0.0	0 0.0
	30～34歳	129 100.0	107 82.9	20 15.5	2 1.6	0 0.0	0 0.0
	その他・答えたくない	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	合計	380 100.0	176 46.3	199 52.4	4 1.1	0 0.0	1 0.3

⑤同居家族(家族類型)

【問5/MA】

- 同居者(複数回答)から家族類型に分類してみると、「二世代世帯」が71.1%で最も高く、他は「夫婦のみ世帯」が11.6%、「三世代等世帯」が7.6%「単身世帯」が6.3%、「その他」が3.2%となっています。
- 性別では、男女ともに「二世代世帯」が最も高く、「男」は67.8%、「女」は72.9%で、「女」が高くなっています。また、「単身世帯」は「男」が10.2%で、「女」(4.3%)に比べ高くなっています。
- 年齢別では、どの年齢区分も「二世代世帯」が最も高くなっています。また、「15~19歳」は「三世代等世帯」が1割を超え、「25~29歳」は「夫婦のみ世帯」が2割を超え、それぞれ他の年齢区分に比べ高くなっています。

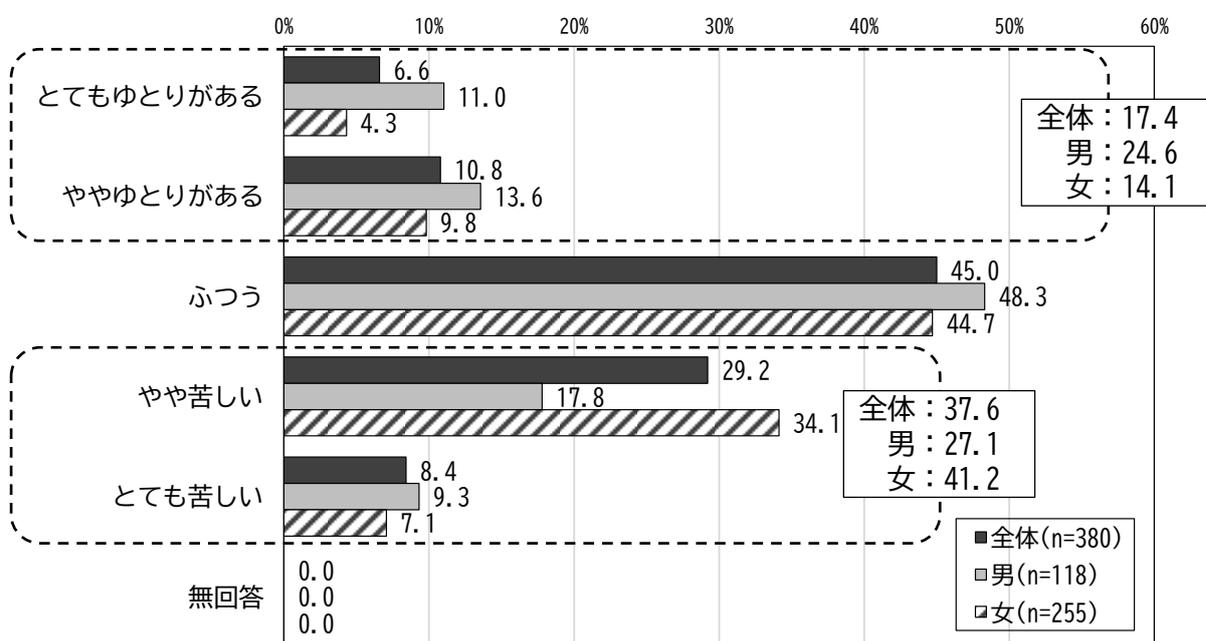


		合計	問5' 家族類型					無回答
			単身世帯	夫婦のみ世帯	二世代世帯	三世代等世帯	その他	
全体		380	24	44	270	29	12	1
		100.0	6.3	11.6	71.1	7.6	3.2	0.3
問2 年齢	15~19歳	80	4	0	64	11	1	0
		100.0	5.0	0.0	80.0	13.8	1.3	0.0
	20~24歳	74	7	3	58	4	2	0
		100.0	9.5	4.1	78.4	5.4	2.7	0.0
	25~29歳	95	5	21	53	9	6	1
		100.0	5.3	22.1	55.8	9.5	6.3	1.1
30~34歳	129	8	20	93	5	3	0	
	100.0	6.2	15.5	72.1	3.9	2.3	0.0	
その他・答えたくない	2	0	0	2	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

⑥現在の家庭の暮らしの経済的な状況

【問6】

- 「ふつう」が45.0%で最も高くなっています。また、「とてもゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』が17.4%、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた『苦しい』が37.6%となっています。
- 男女ともに「ふつう」が最も高くなっています。“男”は『ゆとりがある』が“女”に比べ10.5ポイント高く、また、『苦しい』と大差ありません。“女”は『苦しい』が41.2%で、“男”に比べ14.1ポイント高くなっています。
- 年齢別では、どの年齢区分も『苦しい』が『ゆとりがある』に比べ高く、特に“25～29歳”は50.5%と半数を占めます。



	合計	問6 現在の暮らしの経済的な状況						統合		
		とてもゆとりがある	ややゆとりがある	ふつう	やや苦しい	とても苦しい	無回答	ゆとりがある	苦しい	
全体	380 100.0	25 6.6	41 10.8	171 45.0	111 29.2	32 8.4	0 0.0	17.4	37.6	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	13 16.3	7 8.8	35 43.8	21 26.3	4 5.0	0 0.0	25.0	31.3
	20～24歳	74 100.0	7 9.5	7 9.5	39 52.7	16 21.6	5 6.8	0 0.0	18.9	28.4
	25～29歳	95 100.0	3 3.2	8 8.4	36 37.9	38 40.0	10 10.5	0 0.0	11.6	50.5
	30～34歳	129 100.0	2 1.6	19 14.7	60 46.5	35 27.1	13 10.1	0 0.0	16.3	37.2
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0.0	50.0



- 性別では、『あてはまる』が最も高いのは、“男”が【(4)今の生活が充実している】(79.7%)、“女”が【(2)今、自分は幸せだと感じる】(84.3%)となっています。また、“男”は【(2)今、自分は幸せだと感じる】と【(3)自分の将来についての人生設計について、よく考えたことがある】、【(7)社会のために役立つことをしたい】が8割弱でトップと大差ありません。
- 年齢別では、『あてはまる』が最も高いのは“15～19歳”は【(4)今の生活が充実している】(86.3%)、“20～24歳”と“30～34歳”は【(2)今、自分は幸せだと感じる】(それぞれ81.1%、86.8%)、“25～29歳”は【(3)自分の将来についての人生設計について、よく考えたことがある】(76.8%)となっています。

自分の気持ち	全体 (n=380)		国調査		男性 (n=118)		女性 (n=255)	
	あてはまる	あてはまらない	そう思う	そう思わない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
(1)今の自分が好きだ	67.9	32.1	60.0	39.5	72.9	27.1	66.3	33.7
(2)今、自分は幸せだと感じる	82.1	17.7	84.4	13.6	78.8	20.3	84.3	15.7
(3)自分の将来についての人生設計について、よく考えたことがある	75.8	24.2			78.0	22.0	75.3	24.7
(4)今の生活が充実している	75.8	24.2			79.7	20.3	74.9	25.1
(5)自分の将来に明るい希望を持っている	58.7	41.3	66.4	33.1	56.8	43.2	60.4	39.6
(6)うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む	65.0	35.0	58.6	41.0	65.0	35.0	61.2	38.8
(7)社会のために役立つことをしたい	77.1	22.9	83.0	16.6	76.3	23.7	77.3	22.7
(8)自分は役に立たないと強く感じる	33.1	66.8	31.1	68.6	28.0	72.0	35.3	64.7
(9)孤独であると感じることがある	29.2	70.8			26.3	73.7	29.8	70.2
(10)学校で出会った友人と、いつもつながりを感じている	67.3	32.1	59.9	39.6	65.3	34.7	68.6	30.6

※国調査は、内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査(15～39歳)」2022年度

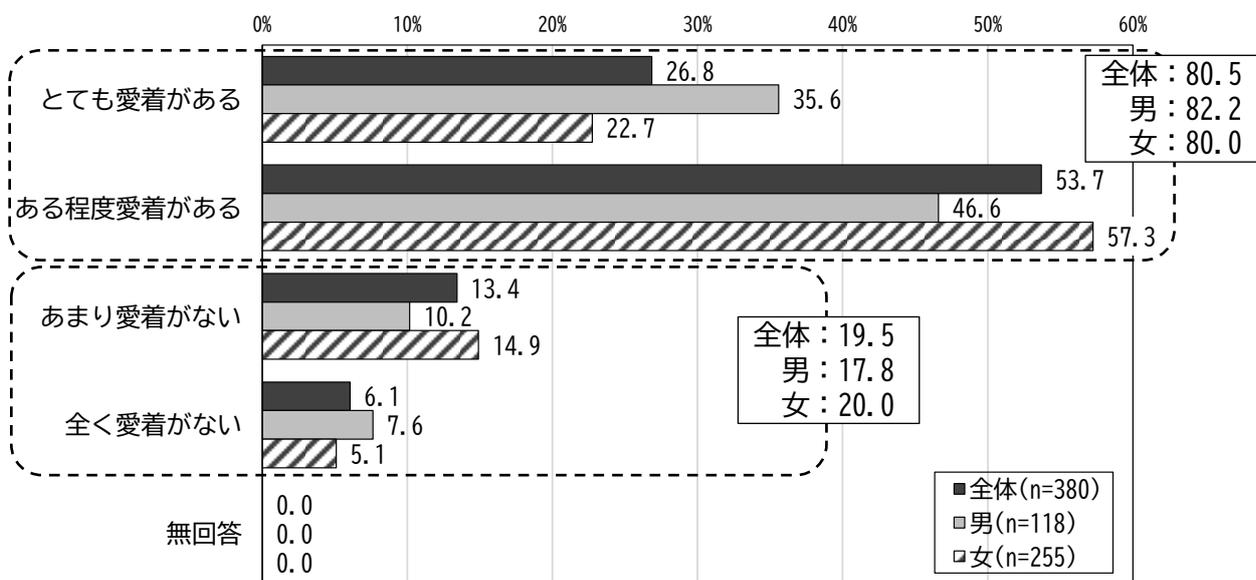
自分の気持ち	15～19歳 (n=80)		20～24歳 (n=74)		25～29歳 (n=95)		30～34歳 (n=129)	
	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
(1)今の自分が好きだ	70.0	30.0	70.3	29.7	60.0	40.0	71.3	28.7
(2)今、自分は幸せだと感じる	85.0	15.0	81.1	18.9	74.7	25.3	86.8	12.4
(3)自分の将来についての人生設計について、よく考えたことがある	72.5	27.5	78.4	21.6	76.8	23.2	75.2	24.8
(4)今の生活が充実している	86.3	13.8	75.7	24.3	64.2	35.8	78.3	21.7
(5)自分の将来に明るい希望を持っている	58.8	41.3	64.9	35.1	43.2	56.8	66.7	33.3
(6)うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む	65.0	35.0	68.9	31.1	60.0	40.0	66.7	33.3
(7)社会のために役立つことをしたい	77.5	22.5	79.7	20.3	75.8	24.2	76.7	23.3
(8)自分は役に立たないと強く感じる	40.0	60.0	31.1	68.9	40.0	60.0	25.6	74.4
(9)孤独であると感じることがある	26.3	73.8	31.1	68.9	34.7	65.3	25.6	74.4
(10)学校で出会った友人と、いつもつながりを感じている	83.8	16.3	77.0	21.6	65.3	34.7	54.3	45.0

### 3 地域の人との関わりや、地域の居場所について

#### ①居住地に対する愛着度

【問8】

- 「とても愛着がある」と「ある程度愛着がある」を合わせた『愛着がある』が80.5%、一方、「あまり愛着がない」と「全く愛着がない」を合わせた『愛着がない』が19.5%となっています。
- 性別では、『愛着がある』は“男”（82.2%）と“女”（80.0%）が大差なく、『愛着がない』も“男”（17.8%）と“女”（20.0%）が大差ありません。
- 年齢別では、『愛着がある』は“15～19歳”が87.5%で最も高く、“25～29歳”が73.7%で最も低くなっています。

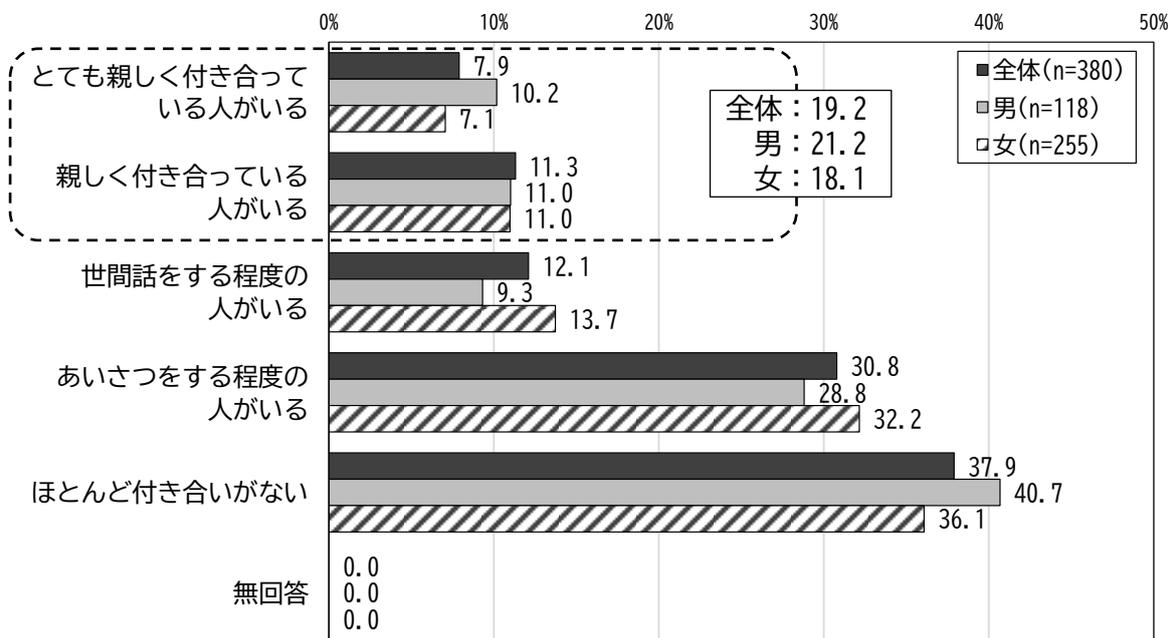


	合計	問8 居住地に対する愛着度					統合		
		とても愛着がある	ある程度愛着がある	あまり愛着がない	全く愛着がない	無回答	愛着がある	愛着がない	
全体	380	102	204	51	23	0	80.5	19.5	
	100.0	26.8	53.7	13.4	6.1	0.0			
問2 年齢	15～19歳	80	24	46	4	6	0	87.5	12.5
		100.0	30.0	57.5	5.0	7.5	0.0		
	20～24歳	74	28	31	8	7	0	79.7	20.3
		100.0	37.8	41.9	10.8	9.5	0.0		
	25～29歳	95	24	46	22	3	0	73.7	26.3
		100.0	25.3	48.4	23.2	3.2	0.0		
30～34歳	129	25	80	17	7	0	81.4	18.6	
	100.0	19.4	62.0	13.2	5.4	0.0			
その他・答えたくない	2	1	1	0	0	0	100.0	0.0	
	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0			

②地域の人との付き合いの程度

【問9】

- 「とても親しく付き合っている人がいる」と「親しく付き合っている人がいる」を合わせた『親しく付き合っている人がいる』が19.2%、一方、「ほとんど付き合いがない」が37.9%となっています。
- 性別では、『親しく付き合っている人がいる』は、“男”（21.2%）が“女”（18.1%）に比べ3.1ポイント高くなっています。また、「ほとんど付き合いがない」も、“男”（40.7%）が“女”（36.1%）に比べ4.6ポイント高くなっています。
- 年齢別では、『親しく付き合っている人がいる』は、“15～19歳”（26.3%）と“20～24歳”（25.7%）が他の年齢区分に比べて高く、「ほとんど付き合いがない」は“25～29歳”（50.5%）と“30～34歳”（40.3%）が高くなっています。

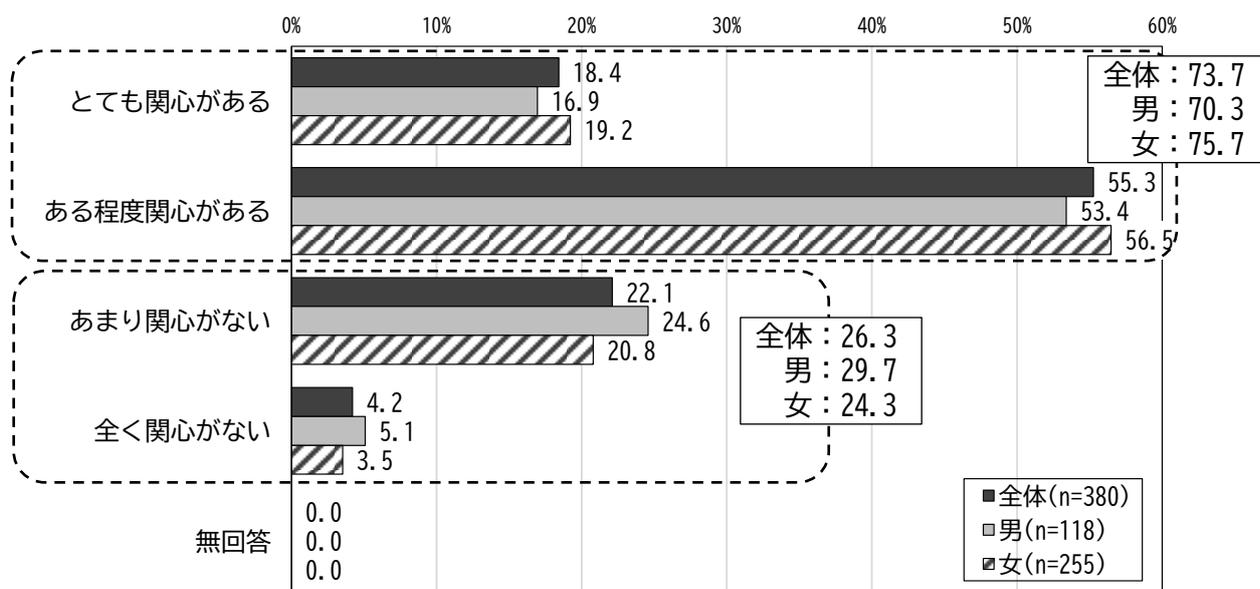


	合計	問9 地域の人との付き合いの程度						統合 親しく付き合っている人がいる	
		とても親しく付き合っている人がいる	親しく付き合っている人がいる	世間話をする程度の人がある	あいさつをする程度の人がある	ほとんど付き合いがない	無回答		
全体	380 100.0	30 7.9	43 11.3	46 12.1	117 30.8	144 37.9	0 0.0	19.2	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	10 12.5	11 13.8	7 8.8	33 41.3	19 23.8	0 0.0	26.3
	20～24歳	74 100.0	8 10.8	11 14.9	4 5.4	27 36.5	24 32.4	0 0.0	25.7
	25～29歳	95 100.0	2 2.1	9 9.5	15 15.8	21 22.1	48 50.5	0 0.0	11.6
	30～34歳	129 100.0	10 7.8	12 9.3	19 14.7	36 27.9	52 40.3	0 0.0	17.1
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0.0

### ③地域での助け合いに対する関心度

【問10】

- 「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』が73.7%、一方、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない』が26.3%となっています。
- 性別では、『関心がある』は、“女”（75.7%）が“男”（70.3%）に比べ5.4ポイント高く、一方、『関心がない』は、“男”（29.7%）が“女”（24.3%）に比べ5.4ポイント高くなっています。
- 年齢別では、『関心がある』は、“20～24歳”（82.4%）が8割を超えて最も高く、“25～29歳”（62.1%）が最も低くなっています。

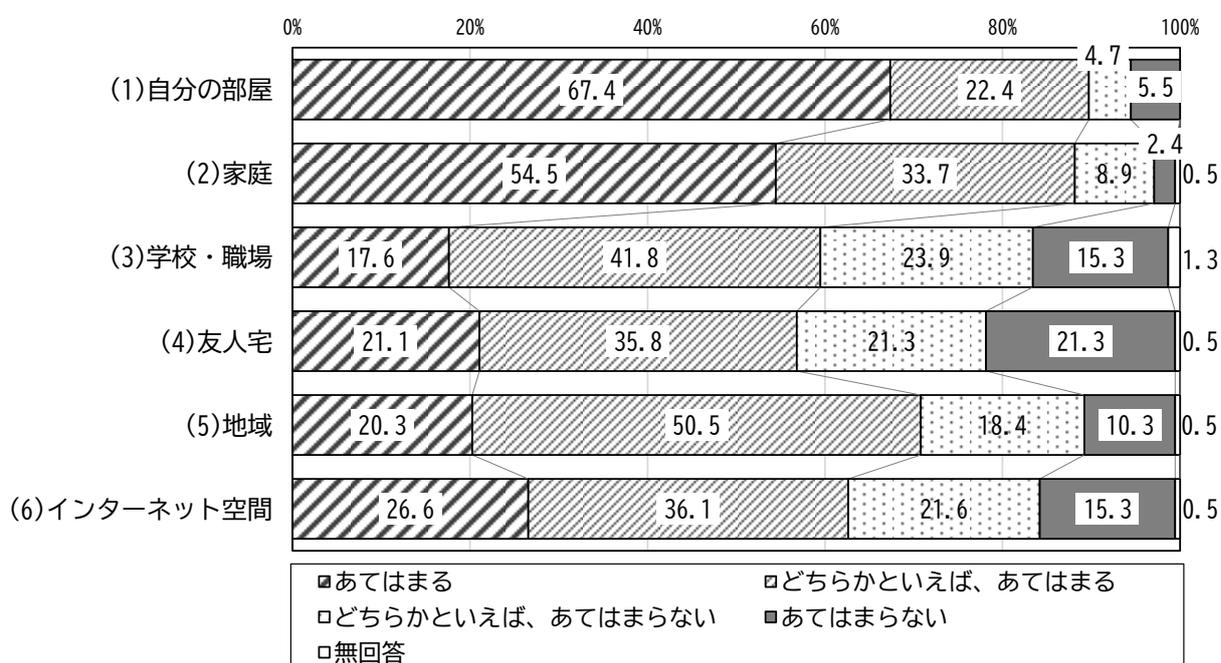


	合計	問10 地域での助け合い等に対する関心度					統合		
		とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答	関心がある	関心がない	
全体	380	70	210	84	16	0	73.7	26.3	
	100.0	18.4	55.3	22.1	4.2	0.0			
問2 年齢	15～19歳	80	10	50	16	4	0	75.0	25.0
		100.0	12.5	62.5	20.0	5.0	0.0		
	20～24歳	74	27	34	11	2	0	82.4	17.6
		100.0	36.5	45.9	14.9	2.7	0.0		
	25～29歳	95	12	47	33	3	0	62.1	37.9
		100.0	12.6	49.5	34.7	3.2	0.0		
30～34歳	129	21	77	24	7	0	76.0	24.0	
	100.0	16.3	59.7	18.6	5.4	0.0			
その他・答えたくない	2	0	2	0	0	0	100.0	0.0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0			

#### ④自分にとっての居場所

【問11(1)～(6)】

- 「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる』は【(1)自分の部屋】が89.8%で最も高く、次いで【(2)家庭】(88.2%)、【(5)地域】(70.8%)、【(6)インターネット空間】(62.7%)、【(3)学校・職場】(59.4%)と続き、【(4)友人宅】が56.9%で最も低くなっています。国の同年代の調査と比べて、選択肢は異なるものの、どの居場所も本調査の『あてはまる』が高くなっています。
- 性別では、『あてはまる』は【(3)学校・職場】と【(5)地域】、【(6)インターネット空間】は“男”が、【(2)家庭】は“女”が、それぞれ高く、【(1)自分の部屋】と【(4)友人宅】は大差ありません。
- 年齢別では、『あてはまる』が“30～34歳”は【(2)家庭】が、他の年齢区分は【(1)自分の部屋】が、それぞれ最も高くなっています。

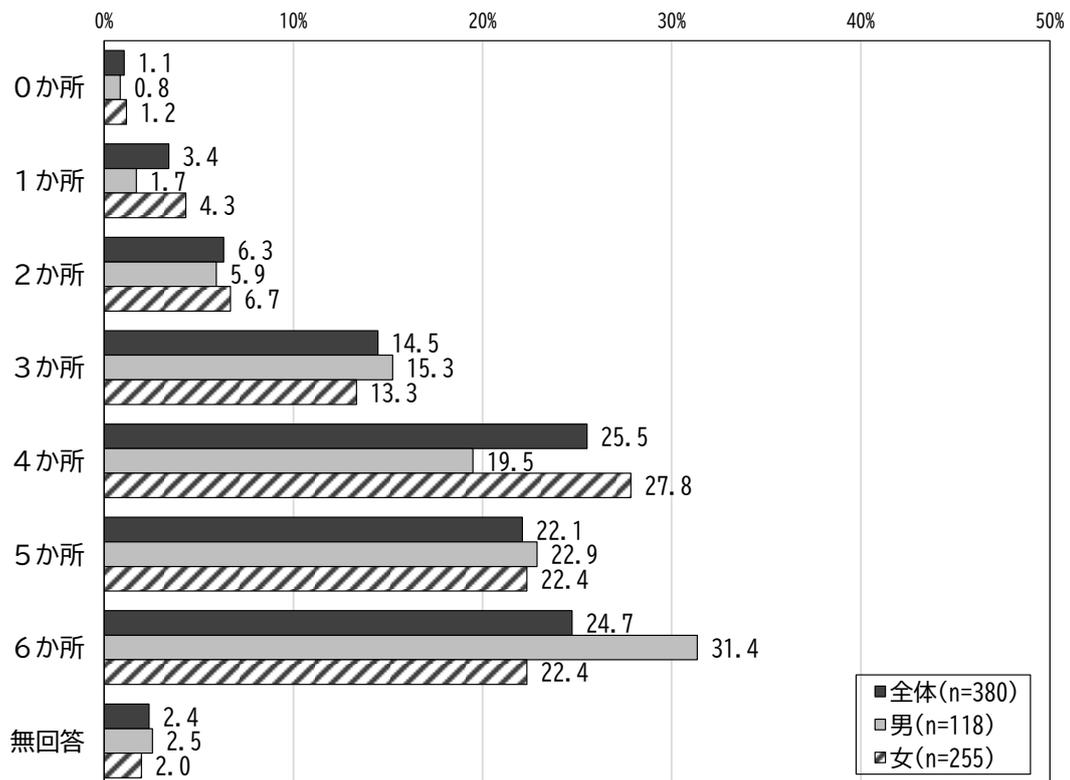


居場所について	全体 (n=380)		国調査		男性 (n=118)		女性 (n=255)	
	あてはまる	あてはまらない	そう思う	そう思わない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
(1)自分の部屋	89.8	10.2	84.3	5.5	90.7	9.3	89.0	11.0
(2)家庭 (親せきの家を含む)	88.2	11.3	87.0	10.8	85.6	14.4	89.8	9.4
(3)学校・職場	59.4	39.2	44.9	43.1	66.9	32.2	56.9	41.6
(4)友人宅	56.9	42.6	41.0	40.8	57.6	42.4	56.5	43.1
(5)地域 (現在住んでいる場所やその周辺の施設など)	70.8	28.7	50.6	34.4	75.4	23.7	69.4	30.2
(6)インターネット空間	62.7	36.8	56.6	32.3	66.9	32.2	60.8	38.8

※国調査は、内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査(15～39歳)」2022年度で、選択肢に「あてはまるものはない、わからない」がある。

居場所について	15～19歳 (n=80)		20～24歳 (n=74)		25～29歳 (n=95)		30～34歳 (n=129)	
	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
(1)自分の部屋	95.0	5.0	94.6	5.4	90.5	9.5	82.9	17.1
(2)家庭（親せきの家を含む）	91.3	8.8	90.5	9.5	85.3	13.7	86.8	12.4
(3)学校・職場	71.3	28.8	74.3	25.7	54.7	44.2	47.3	49.6
(4)友人宅	63.8	35.0	62.2	37.8	51.6	47.4	53.5	46.5
(5)地域（現在住んでいる場所やその周辺の施設など）	81.3	18.8	78.4	21.6	60.0	38.9	67.4	31.8
(6)インターネット空間	68.8	30.0	73.0	27.0	62.1	36.8	52.7	47.3

- 居場所の数についてみると、「6か所」全てが24.7%、「5か所」が22.1%、「4か所」が25.5%で、『4か所以上』は合わせて72.3%となっています。一方、居場所が全くない「0か所」が1.1%、「1か所」が3.4%で、『2か所以下』は合わせて10.8%となっています。
- 性別では、『4か所以上』は“男”が73.8%、“女”が72.6%で大差ありませんが、“男”は「6か所」が“女”に比べ9.0ポイント高くなっています。一方、『2か所以下』は“男”（8.4%）に比べ“女”（12.2%）が3.8ポイント高くなっています。
- 年齢別では、『4か所以上』は“15～19歳”（81.3%）と“20～24歳”（89.1%）が8割を超え、“25～29歳”と“30～34歳”の6割台に比べて高くなっています。“25～29歳”と“30～34歳”は『2か所以下』が1割を超え、他の年齢区分に比べ高くなっています。
- 家族類型別では、『4か所以上』は“三世帯等世帯”（82.8%）が他の世帯のおよそ7割に比べ高くなっています。一方、『2か所以下』は“単身世帯”（20.8%）が他の世帯に比べ高くなっています。



	合計	居場所の数								
		0か所	1か所	2か所	3か所	4か所	5か所	6か所	無回答	
全体	380 100.0	4 1.1	13 3.4	24 6.3	55 14.5	97 25.5	84 22.1	94 24.7	9 2.4	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	1 1.3	2 2.5	2 2.5	8 10.0	14 17.5	20 25.0	31 38.8	2 2.5
	20～24歳	74 100.0	0 0.0	0 0.0	4 5.4	4 5.4	26 35.1	14 18.9	26 35.1	0 0.0
	25～29歳	95 100.0	2 2.1	5 5.3	8 8.4	17 17.9	20 21.1	21 22.1	21 22.1	1 1.1
	30～34歳	129 100.0	1 0.8	6 4.7	10 7.8	26 20.2	37 28.7	27 20.9	16 12.4	6 4.7
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	問5 家族類型	単身世帯	24 100.0	0 0.0	3 12.5	2 8.3	2 8.3	4 16.7	7 29.2	6 25.0
夫婦のみ世帯		44 100.0	1 2.3	0 0.0	2 4.5	9 20.5	17 38.6	9 20.5	6 13.6	0 0.0
二世帯世帯		270 100.0	1 0.4	10 3.7	18 6.7	41 15.2	64 23.7	61 22.6	67 24.8	8 3.0
三世帯等世帯		29 100.0	1 3.4	0 0.0	1 3.4	2 6.9	8 27.6	4 13.8	12 41.4	1 3.4
その他		12 100.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	4 33.3	3 25.0	2 16.7	0 0.0

- 居場所の数と自分の気持ちとの関係を見ると、(1)～(7)と(10)の中では【(3)自分の将来についての人生設計についてよく考えたことがある】以外の7項目で、居場所の数が“6か所”全てでは自己肯定感等を持つ率が最も高く、一方、【(8)自分は役に立たないと強く感じる】と【(9)孤独であると感じることがある】では『あてはまらない』が最も高くなっています。

	合計	問7(1)今の自分が好きだ					統合		問7(2)今、自分は幸せだと感じる					統合	
		あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない
全体	380 100.0	84 22.1	174 45.8	93 24.5	29 7.6	0 0.0	67.9	32.1	150 39.5	162 42.6	44 11.6	23 6.1	1 0.3	82.1	17.7
問1,1 居場所の数	0か所	4 100.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	25.0	75.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	50.0	50.0
	1か所	13 100.0	0 0.0	4 30.8	7 53.8	2 15.4	30.8	69.2	1 7.7	6 46.2	6 46.2	0 0.0	53.8	46.2	
	2か所	24 100.0	1 4.2	7 29.2	11 45.8	5 20.8	33.3	66.7	4 16.7	10 41.7	5 20.8	5 20.8	0 0.0	58.3	41.7
	3か所	55 100.0	7 12.7	23 41.8	16 29.1	9 16.4	54.5	45.5	13 23.6	31 56.4	3 5.5	8 14.5	0 0.0	80.0	20.0
	4か所	97 100.0	18 18.6	50 51.5	25 25.8	4 4.1	70.1	29.9	35 36.1	44 45.4	14 14.4	4 4.1	0 0.0	81.4	18.6
	5か所	84 100.0	27 32.1	38 45.2	15 17.9	4 4.8	77.4	22.6	45 53.6	27 32.1	10 11.9	2 2.4	0 0.0	85.7	14.3
	6か所	94 100.0	30 31.9	47 50.0	14 14.9	3 3.2	81.9	18.1	48 51.1	40 42.6	3 3.2	3 3.2	0 0.0	93.6	6.4

	合計	問7(3)自分の将来についての人生設計について、よく考えたことがある					統合		問7(4)今の生活が充実している					統合	
		あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない
全体	380 100.0	131 34.5	157 41.3	64 16.8	28 7.4	0 0.0	75.8	24.2	120 31.6	168 44.2	67 17.6	25 6.6	0 0.0	75.8	24.2
問1,1 居場所の数	0か所	4 100.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	50.0	50.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	25.0	75.0
	1か所	13 100.0	2 15.4	4 30.8	5 38.5	2 15.4	46.2	53.8	1 7.7	4 30.8	6 46.2	2 15.4	0 0.0	38.5	61.5
	2か所	24 100.0	9 37.5	8 33.3	3 12.5	4 16.7	70.8	29.2	2 8.3	9 37.5	7 29.2	6 25.0	0 0.0	45.8	54.2
	3か所	55 100.0	18 32.7	19 34.5	12 21.8	6 10.9	67.3	32.7	10 18.2	28 50.9	9 16.4	8 14.5	0 0.0	69.1	30.9
	4か所	97 100.0	36 37.1	39 40.2	15 15.5	7 7.2	77.3	22.7	24 24.7	53 54.6	16 16.5	4 4.1	0 0.0	79.4	20.6
	5か所	84 100.0	30 35.7	42 50.0	9 10.7	3 3.6	85.7	14.3	38 45.2	31 36.9	12 14.3	3 3.6	0 0.0	82.1	17.9
	6か所	94 100.0	33 35.1	40 42.6	16 17.0	5 5.3	77.7	22.3	43 45.7	40 42.6	10 10.6	1 1.1	0 0.0	88.3	11.7

	合計	問7(5)自分の将来に明るい希望を持っている					統合		問7(6)うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む					統合		
		あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	
全体	380 100.0	82 21.6	141 37.1	111 29.2	46 12.1	0 0.0	58.7	41.3	78 20.5	169 44.5	101 26.6	32 8.4	0 0.0	65.0	35.0	
問1-1、居場所の数	0か所	4 100.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	25.0	75.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	75.0	25.0	
	1か所	13 100.0	0 0.0	4 30.8	5 38.5	4 30.8	0 0.0	30.8	69.2	1 7.7	5 38.5	4 30.8	3 23.1	0 0.0	46.2	53.8
	2か所	24 100.0	2 8.3	5 20.8	10 41.7	7 29.2	0 0.0	29.2	70.8	2 8.3	7 29.2	9 37.5	6 25.0	0 0.0	37.5	62.5
	3か所	55 100.0	9 16.4	18 32.7	17 30.9	11 20.0	0 0.0	49.1	50.9	11 20.0	20 36.4	17 30.9	7 12.7	0 0.0	56.4	43.6
	4か所	97 100.0	16 16.5	36 37.1	34 35.1	11 11.3	0 0.0	53.6	46.4	16 16.5	39 40.2	34 35.1	8 8.2	0 0.0	56.7	43.3
	5か所	84 100.0	23 27.4	33 39.3	20 23.8	8 9.5	0 0.0	66.7	33.3	21 25.0	43 51.2	17 20.2	3 3.6	0 0.0	76.2	23.8
	6か所	94 100.0	30 31.9	41 43.6	20 21.3	3 3.2	0 0.0	75.5	24.5	25 26.6	49 52.1	16 17.0	4 4.3	0 0.0	78.7	21.3

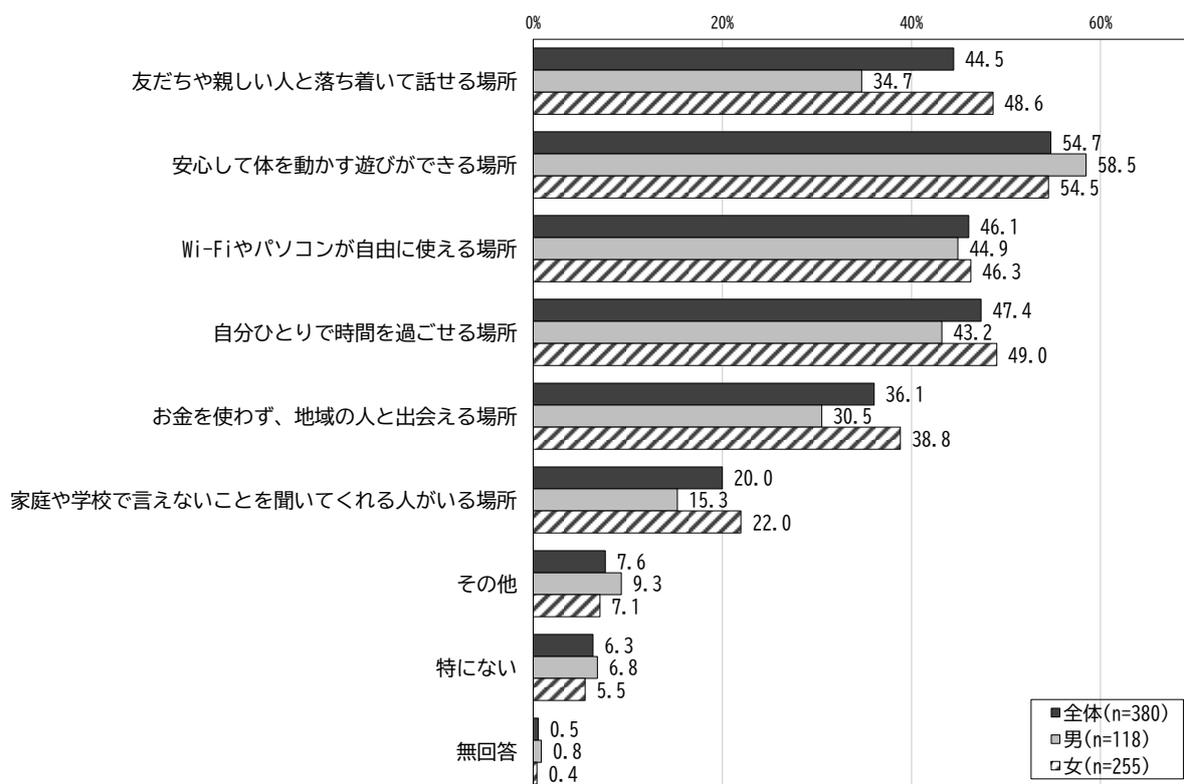
	合計	問7(7)社会のために役立つことをしたい					統合		問7(8)自分は役に立たないと強く感じる					統合		
		あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	
全体	380 100.0	100 26.3	193 50.8	62 16.3	25 6.6	0 0.0	77.1	22.9	43 11.3	83 21.8	157 41.3	97 25.5	0 0.0	33.1	66.8	
問1-1、居場所の数	0か所	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	50.0	50.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	25.0	75.0	
	1か所	13 100.0	2 15.4	4 30.8	6 46.2	1 7.7	0 0.0	46.2	53.8	3 23.1	3 23.1	7 53.8	0 0.0	46.2	53.8	
	2か所	24 100.0	4 16.7	7 29.2	5 20.8	8 33.3	0 0.0	45.8	54.2	7 29.2	8 33.3	5 20.8	4 16.7	0 0.0	62.5	37.5
	3か所	55 100.0	15 27.3	28 50.9	8 14.5	4 7.3	0 0.0	78.2	21.8	11 20.0	10 18.2	21 38.2	13 23.6	0 0.0	38.2	61.8
	4か所	97 100.0	23 23.7	53 54.6	16 16.5	5 5.2	0 0.0	78.4	21.6	10 10.3	20 20.6	46 47.4	21 21.6	0 0.0	30.9	69.1
	5か所	84 100.0	24 28.6	45 53.6	12 14.3	3 3.6	0 0.0	82.1	17.9	6 7.1	19 22.6	34 40.5	25 29.8	0 0.0	29.8	70.2
	6か所	94 100.0	29 30.9	51 54.3	10 10.6	4 4.3	0 0.0	85.1	14.9	3 3.2	21 22.3	39 41.5	31 33.0	0 0.0	25.5	74.5

	合計	問7(9)孤独であると感じることがある					統合		問7(10)学校で出会った友人と、いつもつながりを感じている					統合		
		あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	
全体	380 100.0	39 10.3	72 18.9	113 29.7	156 41.1	0 0.0	29.2	70.8	113 29.7	143 37.6	72 18.9	50 13.2	2 0.5	67.3	32.1	
問1-1、居場所の数	0か所	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	50.0	50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	50.0	50.0	
	1か所	13 100.0	4 30.8	4 30.8	3 23.1	2 15.4	0 0.0	61.5	38.5	2 15.4	3 23.1	7 53.8	1 7.7	0 0.0	38.5	61.5
	2か所	24 100.0	9 37.5	4 16.7	5 20.8	6 25.0	0 0.0	54.2	45.8	1 4.2	7 29.2	4 16.7	12 50.0	0 0.0	33.3	66.7
	3か所	55 100.0	9 16.4	10 18.2	16 29.1	20 36.4	0 0.0	34.5	65.5	10 18.2	23 41.8	12 21.8	10 18.2	0 0.0	60.0	40.0
	4か所	97 100.0	7 7.2	23 23.7	31 32.0	36 37.1	0 0.0	30.9	69.1	25 25.8	29 29.9	29 29.9	14 14.4	0 0.0	55.7	44.3
	5か所	84 100.0	5 6.0	20 23.8	22 26.2	37 44.0	0 0.0	29.8	70.2	23 27.4	42 50.0	11 13.1	8 9.5	0 0.0	77.4	22.6
	6か所	94 100.0	3 3.2	8 8.5	32 34.0	51 54.3	0 0.0	11.7	88.3	49 52.1	35 37.2	5 5.3	4 4.3	1 1.1	89.4	9.6

⑤地域にあったらよいと思う居場所

【問12/MA】

- 「安心して体を動かす遊びができる場所」が54.7%で最も高く、次いで「自分ひとりで時間を過ごせる場所」（47.4%）、「Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所」（46.1%）、「友だちや親しい人と落ち着いて話せる場所」（44.5%）が大差なく続きます。
- 性別では、男女ともに「安心して体を動かす遊びができる場所」が最も高く、順位は異なるものの、全体の2位から4位までの項目が、それぞれ続きます。
- 年齢別では、“15～19歳”と“20～24歳”は「Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所」が、“25～29歳”と“30～34歳”は「安心して体を動かす遊びができる場所」が、それぞれ最も高くなっています。



	合計	問12 地域にあったらよいと思う居場所									
		友だちや親しい人と落ち着いて話せる場所	安心して体を動かす遊びができる場所	Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所	自分ひとりで時間を過ごせる場所	お金を使わず、地域の人と出会う場所	家庭や学校で言えないことを聞いてくれる人がいる場所	その他	特にない	無回答	
全体	380 100.0	169 44.5	208 54.7	175 46.1	180 47.4	137 36.1	76 20.0	29 7.6	24 6.3	2 0.5	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	39 48.8	31 38.8	45 56.3	32 40.0	20 25.0	12 15.0	10 12.5	9 11.3	1 1.3
	20～24歳	74 100.0	36 48.6	33 44.6	40 54.1	38 51.4	24 32.4	16 21.6	6 8.1	5 6.8	0 0.0
	25～29歳	95 100.0	32 33.7	58 61.1	36 37.9	46 48.4	38 40.0	18 18.9	6 6.3	4 4.2	1 1.1
	30～34歳	129 100.0	61 47.3	84 65.1	52 40.3	62 48.1	54 41.9	29 22.5	7 5.4	6 4.7	0 0.0
	その他・答えたくない	2 100.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

- 家族類型別では、“単身世帯”と“三世帯等世帯”は「自分ひとりで時間を過ごせる場所」が、“夫婦のみ世帯”と“二世帯世帯”は「安心して体を動かす遊びができる場所」が、それぞれ最も高くなっています。また、“単身世帯”は「Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所」が5割を超え、他の世帯に比べ高くなっています。
- 居場所の数別では、“0か所”と“1か所”、“4か所”は「自分ひとりで時間を過ごせる場所」が、“2か所”は「Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所」が、“3か所”と“6か所”は「安心して体を動かす遊びができる場所」が、“5か所”は「友だちや親しい人と落ち着いて話せる場所」が、それぞれ最も高くなっています。居場所の数が“5か所”あるいは“6か所”と多い人は、「自分ひとりで時間を過ごせる場所」が相対的に低く、「友だちや親しい人と落ち着いて話せる場所」が高くなっています。

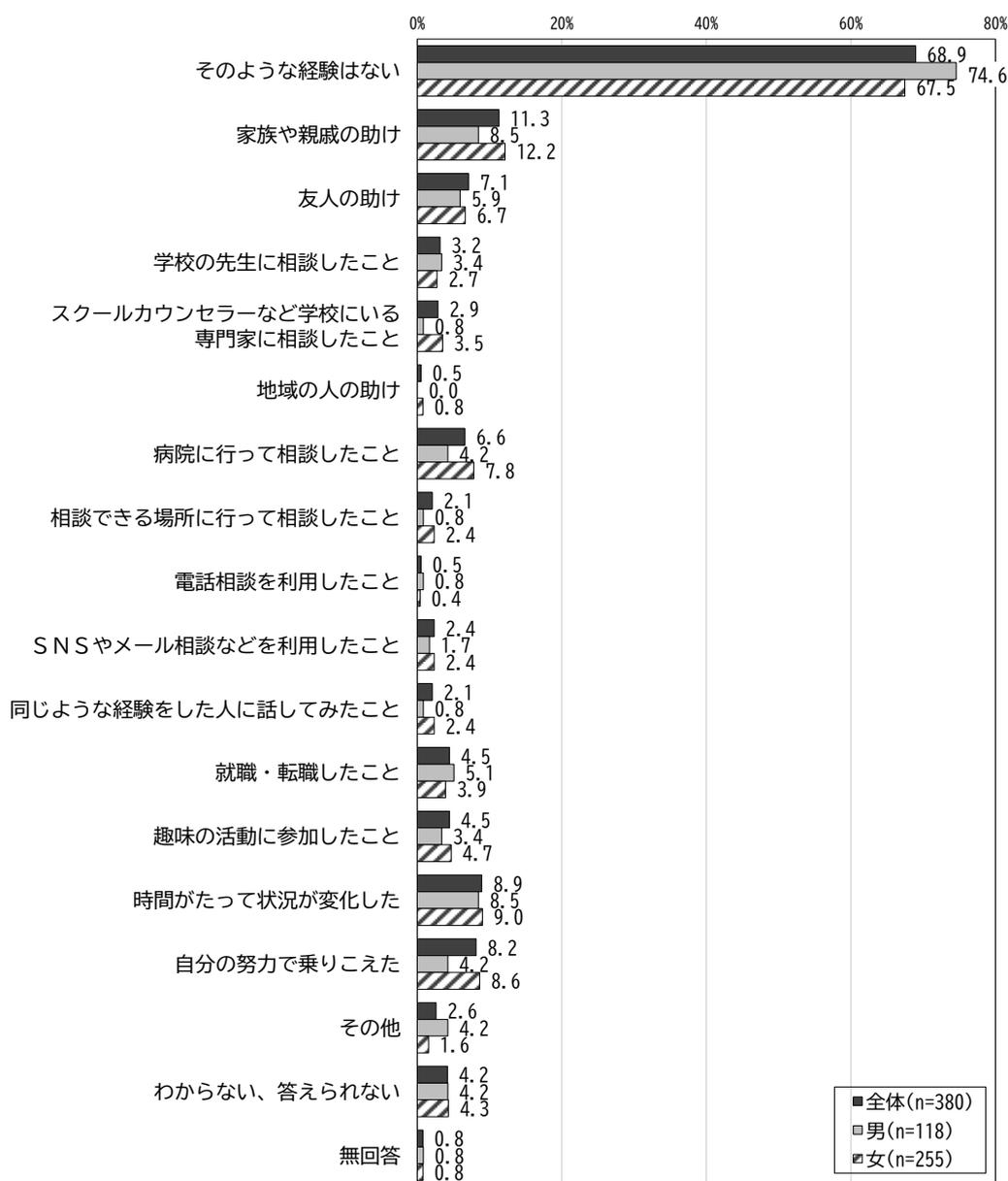
		合計	問12 地域にあったらよいと思う居場所								
			友だちや親しい人と落ち着いて話せる場所	安心して体を動かす遊びができる場所	Wi-Fiやパソコンが自由に使える場所	自分ひとりで時間を過ごせる場所	お金を使わず、地域の人と出会える場所	家庭や学校で言えないことを聞いてくれる人がいる場所	その他	特になし	無回答
全体		380 100.0	169 44.5	208 54.7	175 46.1	180 47.4	137 36.1	76 20.0	29 7.6	24 6.3	2 0.5
問5 家族類型	単身世帯	24 100.0	9 37.5	9 37.5	13 54.2	14 58.3	10 41.7	4 16.7	4 16.7	3 12.5	0 0.0
	夫婦のみ世帯	44 100.0	15 34.1	26 59.1	21 47.7	20 45.5	19 43.2	10 22.7	3 6.8	3 6.8	0 0.0
	二世帯世帯	270 100.0	130 48.1	149 55.2	126 46.7	126 46.7	94 34.8	53 19.6	18 6.7	16 5.9	2 0.7
	三世帯等世帯	29 100.0	13 44.8	14 48.3	10 34.5	16 55.2	12 41.4	8 27.6	3 10.3	2 6.9	0 0.0
	その他	12 100.0	2 16.7	9 75.0	5 41.7	4 33.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0
	問11 居場所の数	0か所	4 100.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
1か所		13 100.0	4 30.8	5 38.5	5 38.5	7 53.8	4 30.8	0 0.0	2 15.4	2 15.4	0 0.0
2か所		24 100.0	5 20.8	10 41.7	15 62.5	12 50.0	8 33.3	5 20.8	1 4.2	1 4.2	0 0.0
3か所		55 100.0	21 38.2	30 54.5	19 34.5	25 45.5	20 36.4	14 25.5	5 9.1	4 7.3	2 3.6
4か所		97 100.0	35 36.1	49 50.5	48 49.5	59 60.8	34 35.1	23 23.7	5 5.2	3 3.1	0 0.0
5か所		84 100.0	49 58.3	44 52.4	34 40.5	35 41.7	33 39.3	14 16.7	8 9.5	8 9.5	0 0.0
6か所		94 100.0	52 55.3	63 67.0	49 52.1	36 38.3	34 36.2	16 17.0	8 8.5	3 3.2	0 0.0

## 4 外出の状況について

### ①「引きこもり」などの状態の経験と改善に役立ったこと

【問13/MA】

- 「そのような経験はない」が68.9%で、残りのおよそ3割が改善に役立ったことをあげています。その中では、「家族や親戚の助け」が11.3%で最も高く、次いで「時間がたって状況が変化した」(8.9%)、「自分の努力で乗りこえた」(8.2%)、「友人の助け」(7.1%)、「病院に行って相談したこと」(6.6%)と続きます。
- 性別では、改善に役立ったことをあげる率は、“男”が20.4%、“女”が27.4%で、“女”が高くなっています。“男”は「就職・転職したこと」と「その他」が“女”に比べ若干高く、これ以外は、“女”が同程度あるいは高くなっています。
- 年齢別では、改善に役立ったことをあげる率は、“25～29歳”(33.6%)と“20～24歳”(32.4%)が3割を超えて高く、“30～34歳”(18.6%)が最も低くなっています。“25～29歳”は「家族や親戚の助け」(17.9%)が、“20～24歳”は「時間がたって状況が変化した」(12.2%)が、それぞれ最も高くなっています。



- 家族類型別では、改善に役立ったことをあげる率は、「三世代等世帯」が44.9%で最も高く、「自分の努力で乗りこえた」（20.7%）や「家族や親戚の助け」と「友人の助け」（ともに17.2%）が高くなっています。

	合計	問13 引きこもりなどの経験と改善に役立ったこと											
		そのような経験はない	家族や親戚の助け	友人の助け	学校の先生に相談したこと	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと	地域の人の助け	病院に行って相談したこと	相談できる場所に行って相談したこと	電話相談を利用したこと	SNSやメール相談などを利用したこと	同じような経験をした人に話してみたこと	就職・転職したこと
全体	380 100.0	262 68.9	43 11.3	27 7.1	12 3.2	11 2.9	2 0.5	25 6.6	8 2.1	2 0.5	9 2.4	8 2.1	17 4.5
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	56 70.0	9 11.3	8 10.0	7 8.8	4 5.0	0 0.0	2 2.5	2 2.5	1 1.3	3 3.8	1 1.3
	20～24歳	74 100.0	46 62.2	8 10.8	7 9.5	2 2.7	2 2.7	0 0.0	4 5.4	1 1.4	0 0.0	3 4.1	2 2.7
	25～29歳	95 100.0	59 62.1	17 17.9	9 9.5	2 2.1	4 4.2	1 1.1	11 11.6	3 3.2	0 0.0	3 3.2	2 2.1
	30～34歳	129 100.0	99 76.7	9 7.0	3 2.3	1 0.8	1 0.8	1 0.8	8 6.2	2 1.6	1 0.8	0 0.0	3 2.3
	その他・答えたくない	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	合計	問13 引きこもりなどの経験と改善に役立ったこと					
		趣味の活動に参加したこと	時間がたつて状況が変化した	自分の努力で乗りこえた	その他	わからない、答えられない	無回答
全体	380 100.0	17 4.5	34 8.9	31 8.2	10 2.6	16 4.2	3 0.8
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	4 5.0	5 6.3	7 8.8	1 1.3	3 3.8
	20～24歳	74 100.0	5 6.8	9 12.2	7 9.5	1 1.4	4 5.4
	25～29歳	95 100.0	4 4.2	11 11.6	10 10.5	2 2.1	3 3.2
	30～34歳	129 100.0	4 3.1	9 7.0	7 5.4	6 4.7	6 4.7
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

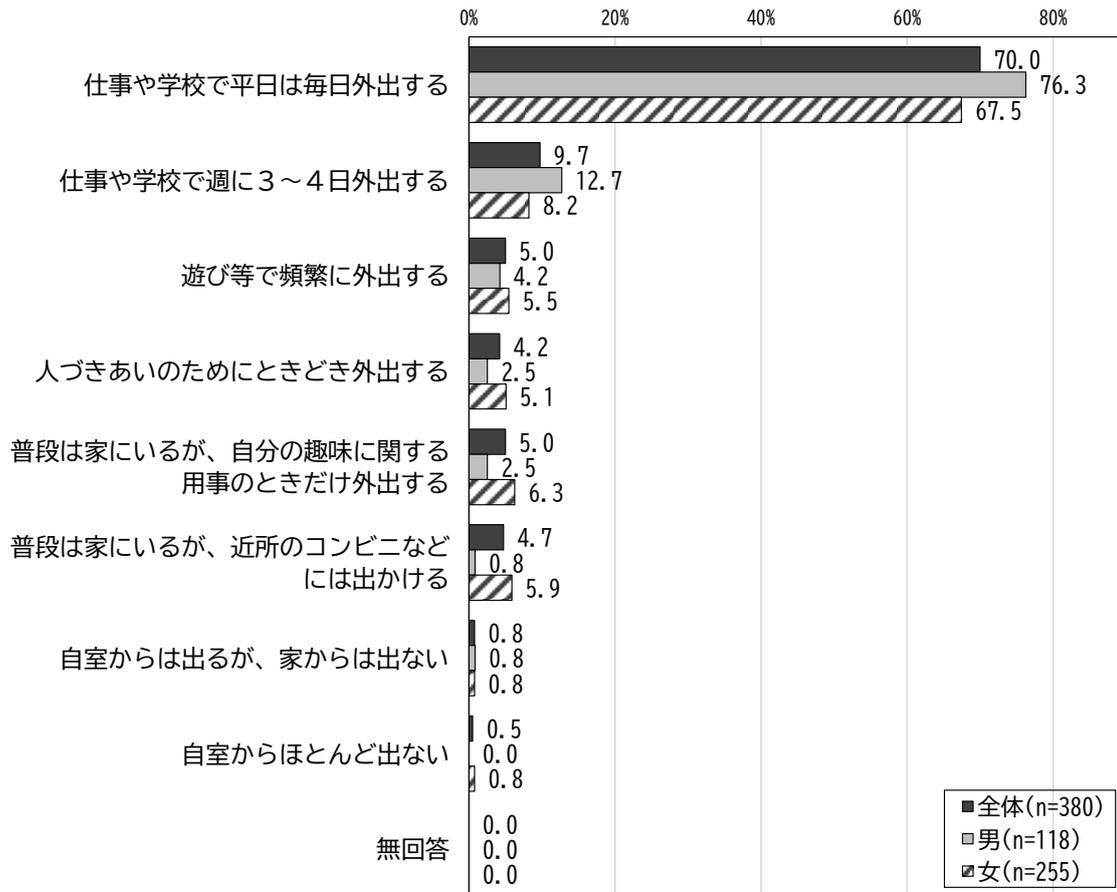
	合計	問13 引きこもりなどの経験と改善に役立ったこと											
		そのような経験はない	家族や親戚の助け	友人の助け	学校の先生に相談したこと	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと	地域の人の助け	病院に行って相談したこと	相談できる場所に行って相談したこと	電話相談を利用したこと	SNSやメール相談などを利用したこと	同じような経験をした人に話してみたこと	就職・転職したこと
全体	380 100.0	262 68.9	43 11.3	27 7.1	12 3.2	11 2.9	2 0.5	25 6.6	8 2.1	2 0.5	9 2.4	8 2.1	17 4.5
問5 家族類型	単身世帯	24 100.0	16 66.7	4 16.7	1 4.2	1 4.2	2 8.3	0 0.0	1 4.2	1 4.2	0 0.0	1 4.2	1 4.2
	夫婦のみ世帯	44 100.0	36 81.8	2 4.5	0 0.0	0 0.0	1 2.3	0 0.0	3 6.8	1 2.3	1 2.3	0 0.0	1 2.3
	二世帯世帯	270 100.0	186 68.9	30 11.1	20 7.4	8 3.0	6 2.2	2 0.7	20 7.4	5 1.9	1 0.4	5 1.9	6 2.2
	三世代等世帯	29 100.0	15 51.7	5 17.2	5 17.2	2 6.9	2 6.9	0 0.0	1 3.4	1 3.4	0 0.0	3 10.3	1 3.4
	その他	12 100.0	8 66.7	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	合計	問13 引きこもりなどの経験と改善に役立ったこと					
		趣味の活動に参加したこと	時間がたつて状況が変化した	自分の努力で乗りこえた	その他	わからない、答えられない	無回答
全体	380 100.0	17 4.5	34 8.9	31 8.2	10 2.6	16 4.2	3 0.8
問5 家族類型	単身世帯	24 100.0	2 8.3	1 4.2	2 8.3	1 4.2	2 8.3
	夫婦のみ世帯	44 100.0	3 6.8	2 4.5	2 4.5	0 0.0	1 2.3
	二世帯世帯	270 100.0	9 3.3	25 9.3	21 7.8	9 3.3	12 4.4
	三世代等世帯	29 100.0	2 6.9	4 13.8	6 20.7	0 0.0	1 3.4
	その他	12 100.0	1 8.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

②普段の外出状況

【問14】

- 「仕事や学校で平日は毎日外出する」が70.0%、「仕事や学校で週に3～4日外出する」が9.7%などで、『外出する』は合わせて88.9%となっています。一方、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」から「自室からほとんど出ない」までを合わせたひきこもり傾向の人は合わせて11.0%となっています。
- 性別では、ひきこもり傾向の率は“男”が4.1%、“女”が13.8%で、“女”が高くなっています。
- 年齢別では、ひきこもり傾向の率は“25～29歳”が19.0%で最も高く、“30～34歳”が12.4%、“20～24歳”が6.9%、“15～19歳”が3.8%で最も低くなっています。

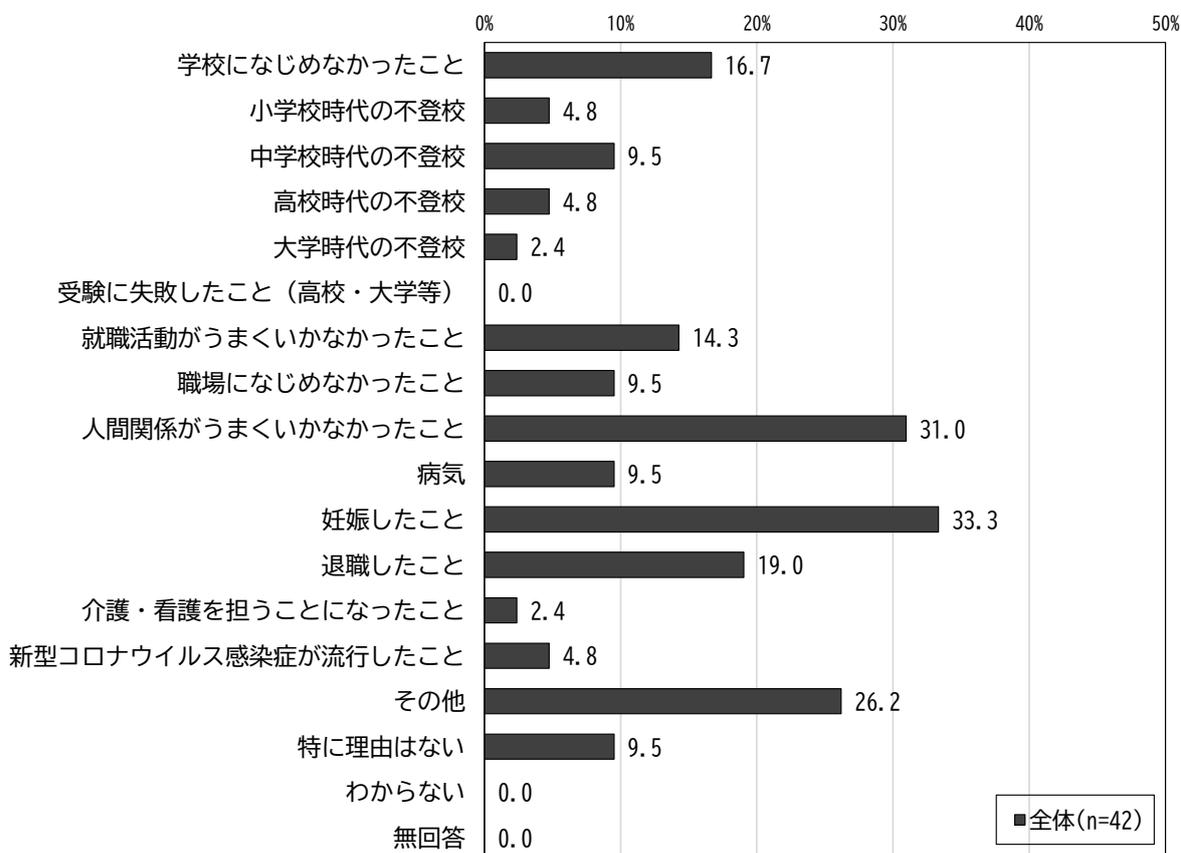


	合計	問14 普段の外出の頻度									統合 引きこもり傾向	
		仕事や学校で平日は毎日外出する	仕事や学校で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	自室からは出るが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	無回答		
全体	380 100.0	266 70.0	37 9.7	19 5.0	16 4.2	19 5.0	18 4.7	3 0.8	2 0.5	0 0.0	11.0	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	66 82.5	9 11.3	2 2.5	0 0.0	2 2.5	0 0.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	3.8
	20～24歳	74 100.0	52 70.3	11 14.9	5 6.8	1 1.4	3 4.1	1 1.4	1 1.4	0 0.0	0 0.0	6.9
	25～29歳	95 100.0	58 61.1	9 9.5	4 4.2	6 6.3	7 7.4	8 8.4	1 1.1	2 2.1	0 0.0	19.0
	30～34歳	129 100.0	88 68.2	8 6.2	8 6.2	9 7.0	7 5.4	9 7.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12.4
	その他・答えたくない	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0.0

### ③あまり外出しない状態になった主な理由（問14の「5」～「8」の選択者）

#### 【問14-1/MA】

- 「妊娠したこと」が33.3%で最も高く、次いで「人間関係がうまくいかなかったこと」(31.0%)、「その他」(26.2%)、「退職したこと」(19.0%)、「学校になじめなかったこと」(16.7%)と続きます。「その他」は「出産のため」が3件、「子育てのため」が2件、「育休中」が2件、「通勤してきて友人ができなかった」、「心身両方の体調不良により」、「在宅ワークになったため」、「大学が通信制で通学のために外出する必要がない」がそれぞれ1件となっています。
- 性別では、“男”は「学校になじめなかったこと」と「人間関係がうまくいかなかったこと」がともに60.0%で最も高く、“女”は「妊娠したこと」が37.1%で最も高くなっています。
- 年齢別では、該当者数の多い“25～29歳”と“30～34歳”でみると、ともに「妊娠したこと」が最も高くなっています。



	合計	問14-1 現在の状態になった主な理由											
		学校になじめなかったこと	小学校時代の不登校	中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学(専門学校、短期大学等を含む)時代の不登校	受験に失敗したこと(高校・大学等)	就職活動がうまくいかなかったこと	職場になじめなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	病気	妊娠したこと	退職したこと
全体	42 100.0	7 16.7	2 4.8	4 9.5	2 4.8	1 2.4	0 0.0	6 14.3	4 9.5	13 31.0	4 9.5	14 33.3	8 19.0
問1 性別	男	5 100.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0
	女	35 100.0	4 11.4	1 2.9	1 2.9	1 2.9	0 0.0	2 5.7	2 5.7	9 25.7	4 11.4	13 37.1	6 17.1
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0

	合計	問14-1 現在の状態になった主な理由					
		介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
全体	42 100.0	1 2.4	2 4.8	11 26.2	4 9.5	0 0.0	0 0.0
問1 性別	男	5 100.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	女	35 100.0	1 2.9	1 2.9	10 28.6	4 11.4	0 0.0
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

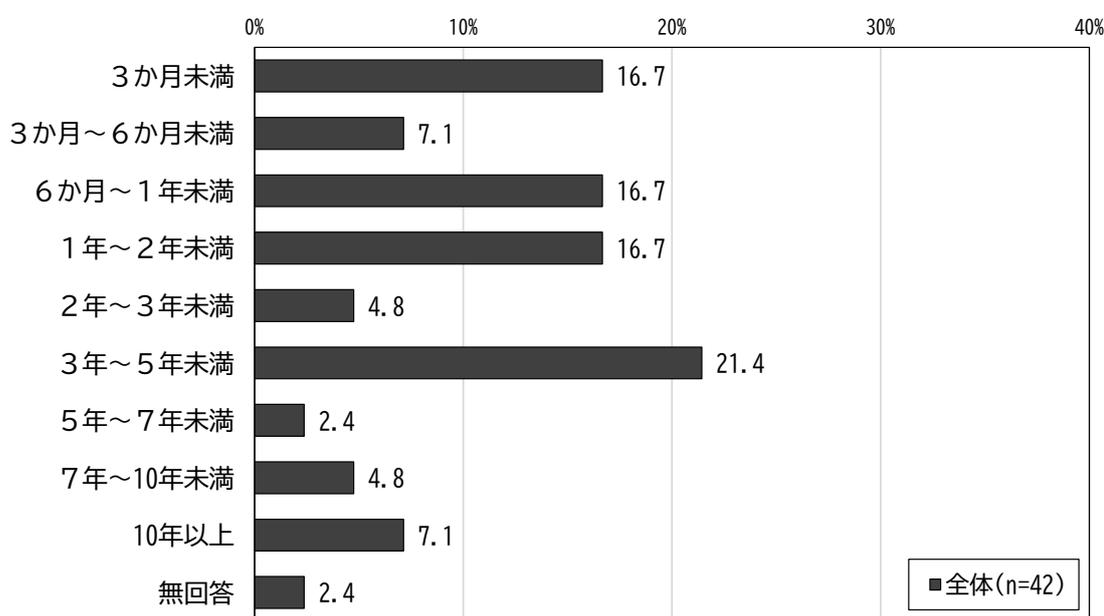
	合計	問14-1 現在の状態になった主な理由											
		学校になじめなかったこと	小学校時代の不登校	中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学(専門学校、短期大学等を含む)時代の不登校	受験に失敗したこと(高校・大学等)	就職活動がうまくいかなかったこと	職場になじめなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	病気	妊娠したこと	退職したこと
全体	42 100.0	7 16.7	2 4.8	4 9.5	2 4.8	1 2.4	0 0.0	6 14.3	4 9.5	13 31.0	4 9.5	14 33.3	8 19.0
問2 年齢	15~19歳	3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	20~24歳	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0
	25~29歳	18 100.0	4 22.2	1 5.6	1 5.6	0 0.0	1 5.6	0 0.0	3 16.7	2 11.1	5 27.8	1 5.6	6 33.3
	30~34歳	16 100.0	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	2 12.5	1 6.3	5 31.3	2 12.5	2 50.0	3 18.8
	その他・答えたくない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	合計	問14-1 現在の状態になった主な理由					
		介護・看護を担うことになったこと	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
全体	42 100.0	1 2.4	2 4.8	11 26.2	4 9.5	0 0.0	0 0.0
問2 年齢	15~19歳	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20~24歳	5 100.0	0 0.0	0 60.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0
	25~29歳	18 100.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	3 16.7	0 0.0
	30~34歳	16 100.0	1 6.3	2 12.5	6 37.5	1 6.3	0 0.0
	その他・答えたくない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

④あまり外出しない状態になってからの年月（問14の「5」～「8」の選択者）

【問14-2】

- 「3年～5年未満」が21.4%で最も高く、次いで「3か月未満」と「6か月～1年未満」、「1年～2年未満」（ともに16.7%）と続きます。『1年未満』が合わせて40.5%、『1年～5年未満』が合わせて42.9%、『5年以上』が合わせて14.3%となっています。
- 性別では、“男”は「3か月未満」（40.0%）が、“女”は「3年～5年未満」（22.9%）が、それぞれ最も高くなっています。
- 年齢別では、“25～29歳”は「6か月～1年未満」（22.2%）が、“30～34歳”は「1年～2年未満」（31.3%）が、それぞれ最も高くなっています。また、“25～29歳”は『5年以上』が27.8%でおおよそ3割となっています。

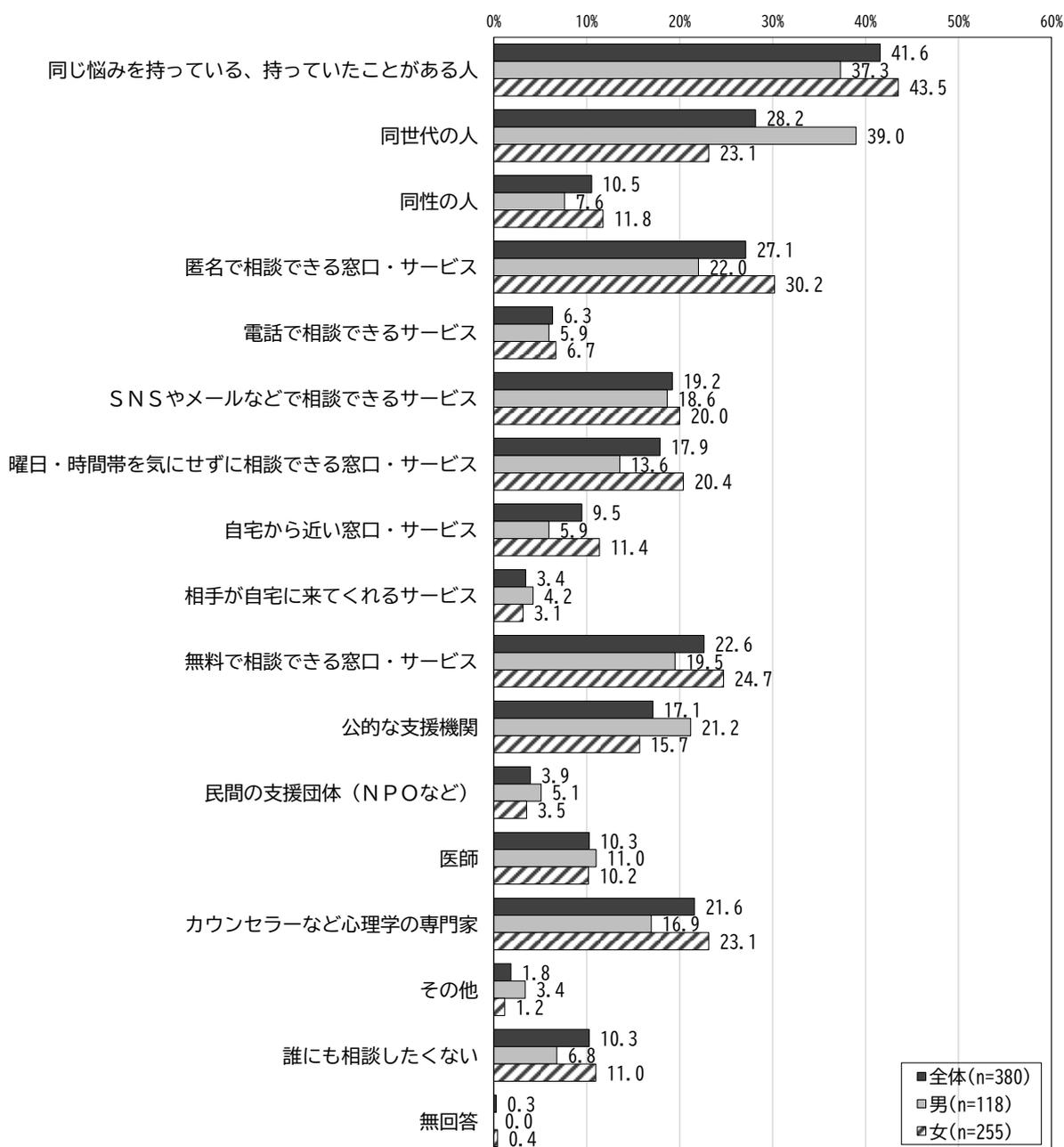


	合計	問14-2 現在の状態になってからの年数									
		3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満	7年～10年未満	10年以上	無回答
全体	42	7	3	7	7	2	9	1	2	3	1
	100.0	16.7	7.1	16.7	16.7	4.8	21.4	2.4	4.8	7.1	2.4
問1 性別	男	5	2	0	0	1	1	0	1	0	0
	100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	女	35	4	3	7	7	1	8	1	1	2
100.0	11.4	8.6	20.0	20.0	2.9	22.9	2.9	2.9	5.7	2.9	
その他・答えたくない	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
問2 年齢	15～19歳	3	1	0	1	0	0	1	0	0	0
	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～24歳	5	1	0	1	1	0	2	0	0	0
	100.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25～29歳	18	3	0	4	1	1	3	1	2	2
	100.0	16.7	0.0	22.2	5.6	5.6	16.7	5.6	11.1	11.1	5.6
30～34歳	16	2	3	1	5	1	3	0	0	1	
100.0	12.5	18.8	6.3	31.3	6.3	18.8	0.0	0.0	6.3	0.0	
その他・答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 5 生活の悩みの相談について

### ①生活を円滑に送ることができない状態になったときの家族や知り合い以外の相談先の希望 【問15/MA】

- 「同じ悩みを持っている、持っていたことがある人」が41.6%で最も高く、次いで「同世代の人」(28.2%)、「匿名で相談できる窓口・サービス」(27.1%)、「無料で相談できる窓口・サービス」(22.6%)、「カウンセラーなど心理学の専門家」(21.6%)と続きます。また、「誰にも相談したくない」が10.3%となっています。
- 性別では、“男”は「同世代の人」(39.0%)が最も高く、「同じ悩みを持っている、持っていたことがある人」(37.3%)が大差なく続き、「同世代の人」は“女”に比べ15.9ポイント高くなっています。“女”は「同じ悩みを持っている、持っていたことがある人」が43.5%で最も高く、次いで「匿名で相談できる窓口・サービス」(30.2%)と続き、いずれも“男”に比べ高くなっています。



- 年齢別では、“15～19歳”は「同世代の人」が、他の年齢区分は「同じ悩みを持っている、持っていたことがある人」が、それぞれ最も高くなっています。

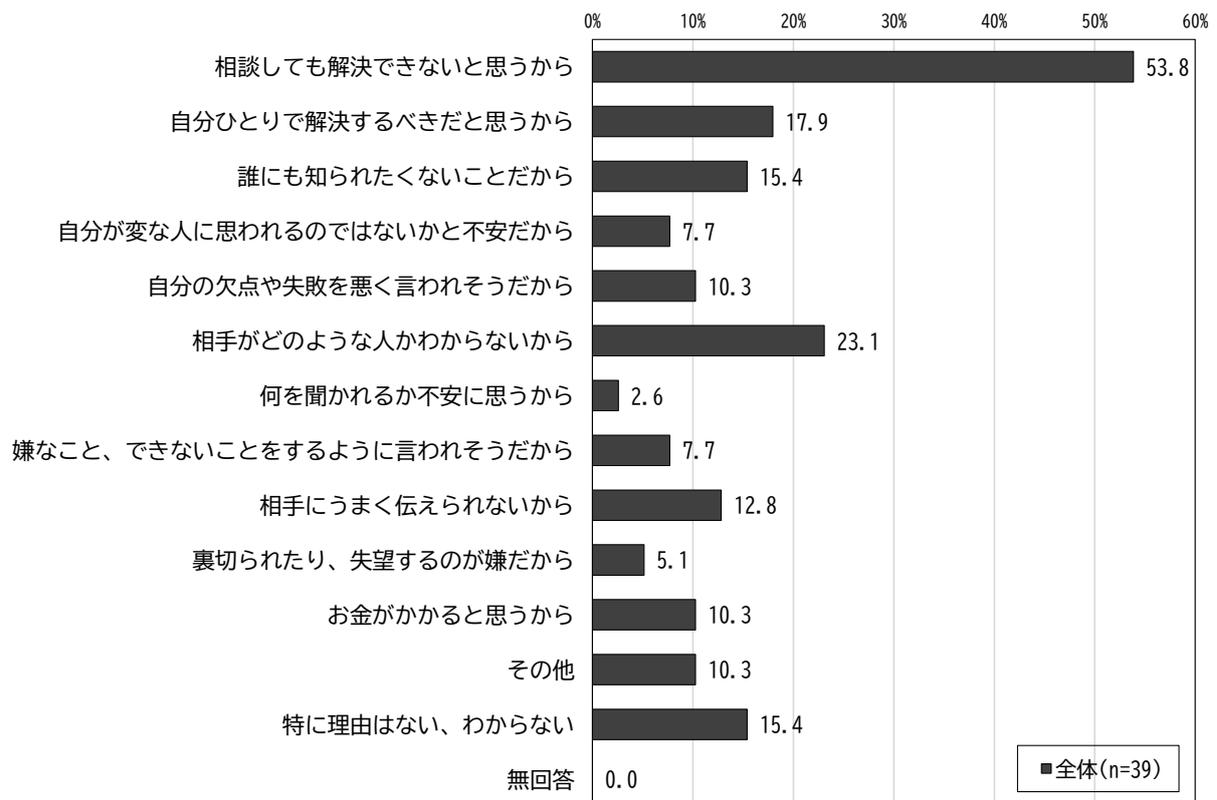
	合計	問15 家族や知り合い以外に希望する相談先												
		同じ悩みを持っている、持っていたことがある人	同世代の人	同性の人	匿名で相談できる窓口・サービス	電話で相談できるサービス	SNSやメールなどで相談できるサービス	曜日・時間帯を気にせずに相談できる窓口・サービス	自宅から近い窓口・サービス	相手が自宅に来てくれるサービス	無料で相談できる窓口・サービス	公的な支援機関	民間の支援団体(NPOなど)	
全体	380 100.0	158 41.6	107 28.2	40 10.5	103 27.1	24 6.3	73 19.2	68 17.9	36 9.5	13 3.4	86 22.6	65 17.1	15 3.9	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	31 38.8	35 43.8	11 13.8	21 26.3	5 6.3	15 18.8	10 12.5	7 8.8	0 0.0	13 16.3	14 17.5	3 3.8
	20～24歳	74 100.0	31 41.9	21 28.4	11 14.9	12 16.2	0 0.0	18 24.3	10 13.5	4 5.4	4 5.4	11 14.9	5 6.8	2 2.7
	25～29歳	95 100.0	39 41.1	27 28.4	11 11.6	27 28.4	6 6.3	19 20.0	14 14.7	7 7.4	3 3.2	22 23.2	14 14.7	3 3.2
	30～34歳	129 100.0	55 42.6	24 18.6	7 5.4	41 31.8	13 10.1	20 15.5	33 25.6	17 13.2	6 4.7	39 30.2	32 24.8	7 5.4
	その他・答えたくない	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

	合計	問15 家族や知り合い以外に希望する相談先					
		医師	カウンセラーなど心理学の専門家	その他	誰にも相談したくない	無回答	
全体	380 100.0	39 10.3	82 21.6	7 1.8	39 10.3	1 0.3	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	4 5.0	11 13.8	1 1.3	9 11.3	0 0.0
	20～24歳	74 100.0	8 10.8	16 21.6	4 5.4	7 9.5	1 1.4
	25～29歳	95 100.0	11 11.6	26 27.4	2 2.1	7 7.4	0 0.0
	30～34歳	129 100.0	16 12.4	27 20.9	0 0.0	16 12.4	0 0.0
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

②「誰にも相談したくない」と思う理由（問15の「16」の選択者）

【問15-1 / MA】

- 「相談しても解決できないと思うから」が53.8%で最も高く、次いで「相手がどのような人かわからないから」（23.1%）、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」（17.9%）と続きます。
- 男女ともに「相談しても解決できないと思うから」が最も高く、“男”は75.0%、“女”は42.9%となっています。
- 年齢別でも、どの年齢区分も「相談しても解決できないと思うから」が最も高くなっていますが、“20～24歳”はおよそ3割と低く、「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」と「相手がどのような人かわからないから」、「特に理由はない、わからない」が同率となっています。



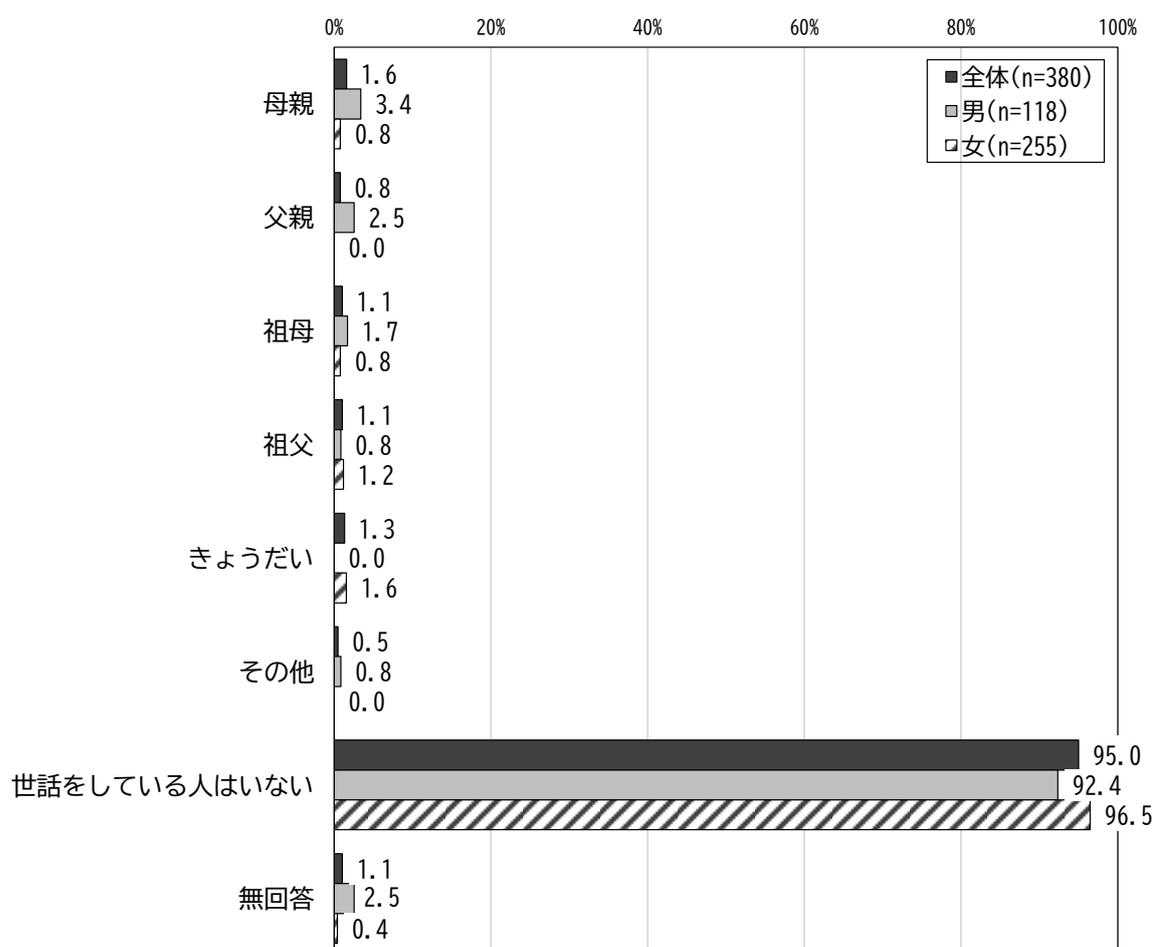
	合計	問15-1 相談したくない理由													無回答
		相談しても解決できないと思うから	自分ひとりで解決するべきだと思うから	誰にも知られたくないことだから	自分変な人に思われるのではないかと不安だから	自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから	相手がどのような人かわからないから	何を聞かれるか不安に思うから	嫌なこと、できないことをするように言われそうだから	相手にうまく伝えられないから	裏切られたり、失望するのが嫌だから	お金がかかると思うから	その他	特に理由はない、わからない	
全体	39 100.0	21 53.8	7 17.9	6 15.4	3 7.7	4 10.3	9 23.1	1 2.6	3 7.7	5 12.8	2 5.1	4 10.3	4 10.3	6 15.4	0 0.0
問1 性別	男	8 100.0	6 75.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	4 50.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	女	28 100.0	12 42.9	4 14.3	5 17.9	2 7.1	2 7.1	5 17.9	0 0.0	2 7.1	2 7.1	0 0.0	2 7.1	3 10.7	6 21.4
	その他・答えたくない	3 100.0	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
問2 年齢	15～19歳	9 100.0	6 66.7	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	3 33.3	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1
	20～24歳	7 100.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	2 28.6	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	2 28.6
	25～29歳	7 100.0	4 57.1	1 14.3	3 42.9	1 14.3	1 14.3	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3
	30～34歳	16 100.0	9 56.3	3 18.8	2 12.5	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	2 12.5	0 0.0	2 12.5	2 12.5	2 12.5
	その他・答えたくない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

## 6 ヤングケアラーについて

### ①家族の中で世話をしている人(子ども以外)

【問16/MA】

- 「世話をしている人はいない」と無回答を除くと、「世話をしている人がいる」は3.9%となっています。その中では、「母親」が1.6%、「きょうだい」が1.3%、「祖母」と「祖父」がともに1.1%、「父親」が0.8%、「その他」が0.5%となっています。
- 性別では、「世話をしている人がいる」率は、“男”が5.1%、“女”が3.1%となっています。“男”は「母親」(3.4%)が、“女”は「きょうだい」(1.6%)が、それぞれ最も高くなっています。
- 年齢別では、「世話をしている人がいる」率は、“30～34歳”が4.6%で最も高く、“20～24歳”が4.1%、“15～19歳”が3.7%、“25～29歳”が3.2%となっています。“30～34歳”は「母親」(3.1%)が、“15～19歳”は「祖母」と「きょうだい」(ともに1.3%)が、“20～24歳”は「きょうだい」(2.7%)が、“25～29歳”は「祖母」と「きょうだい」(ともに2.1%)が、それぞれ最も高くなっています。
- 家族類型別では、「世話をしている人がいる」率は、“三世代等世帯”が13.8%で最も高く、“夫婦のみ世帯”が4.5%、“二世代世帯”が3.3%、“単身世帯”は該当無しとなっています。“三世代等世帯”は「祖母」と「きょうだい」(ともに6.9%)が、“夫婦のみ世帯”は「祖父」(4.5%)が、“二世代世帯”は「母親」(1.9%)が、それぞれ最も高くなっています。

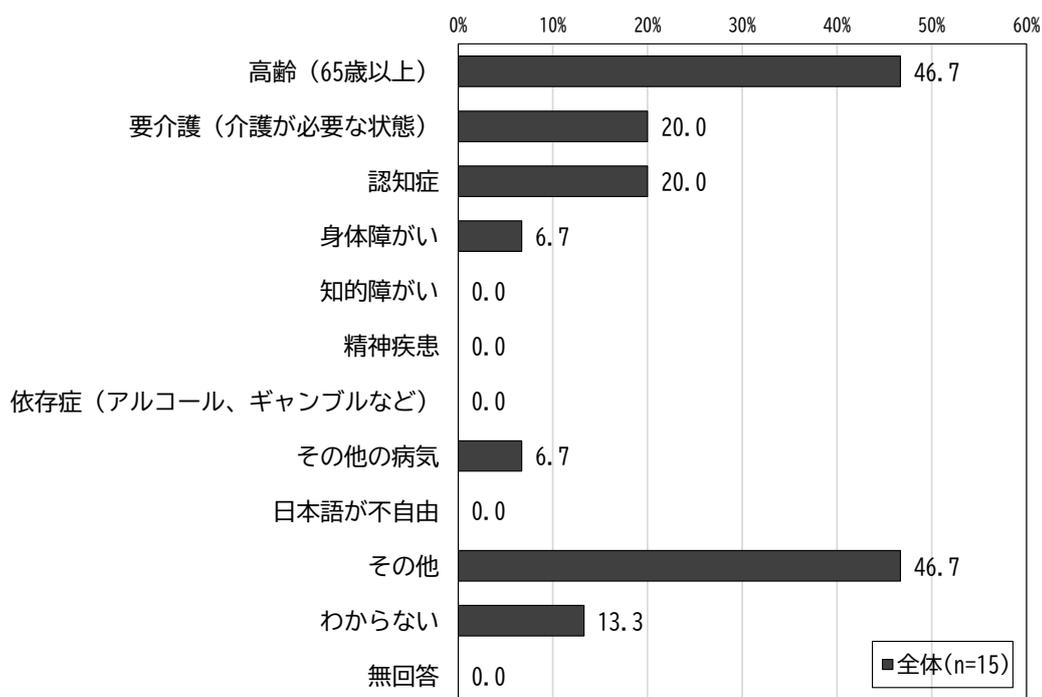


	合計	問16 日常的に世話をしている人								世話をしている人はいない	無回答	世話をしている人がいる
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他					
全体	380 100.0	6 1.6	3 0.8	4 1.1	4 1.1	5 1.3	2 0.5	361 95.0	4 1.1	3.9		
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	1 1.3	1 95.0	1 1.3	3.7		
	20～24歳	74 100.0	1 1.4	1 1.4	1 1.4	1 1.4	2 2.7	1 95.9	0 0.0	4.1		
	25～29歳	95 100.0	1 1.1	0 0.0	2 2.1	1 1.1	2 2.1	0 94.7	2 2.1	3.2		
	30～34歳	129 100.0	4 3.1	2 1.6	0 0.0	2 1.6	0 0.0	0 94.6	1 0.8	4.6		
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	2 0.0	0.0		
	問5 家族類型	単身世帯	24 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	24 0.0	0.0	
夫婦のみ世帯		44 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.3	2 4.5	0 0.0	0 95.5	0 0.0	4.5		
二世帯世帯		270 100.0	5 1.9	3 1.1	1 0.4	1 0.4	3 1.1	1 95.2	4 1.5	3.3		
三世帯等世帯		29 100.0	1 3.4	0 0.0	2 6.9	1 3.4	2 6.9	1 86.2	0 0.0	13.8		
その他		12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	12 0.0	0.0		

②世話を必要としている理由（問16の「1」～「6」の選択者）

【問17/MA】

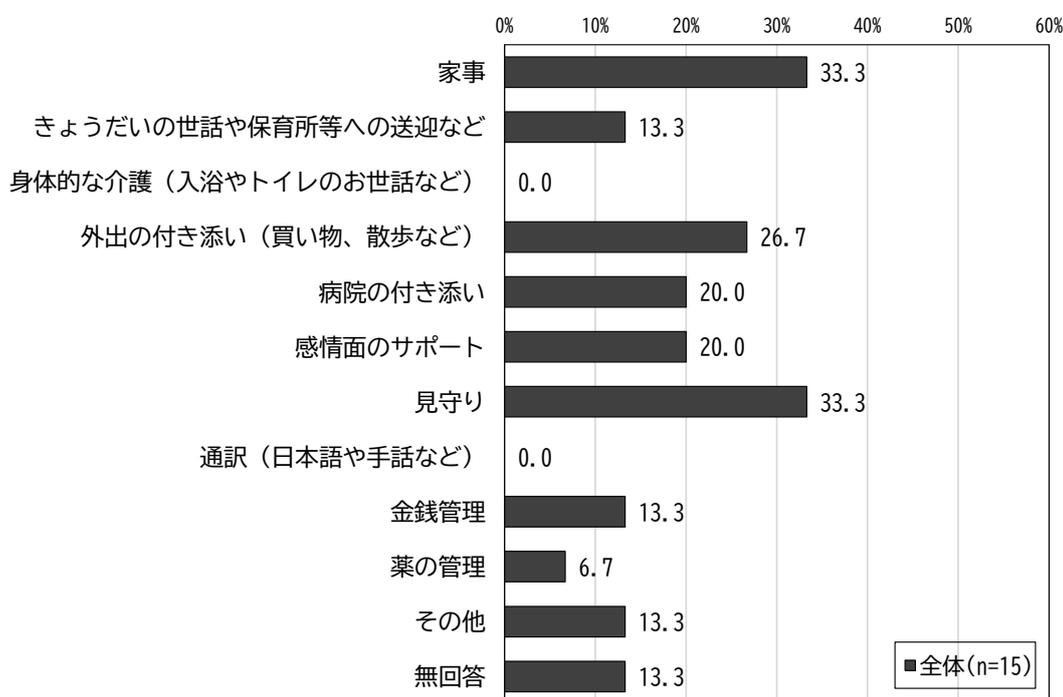
- 「世話を必要としている人がいる」は15件で、理由は「高齢」と「その他」がともに46.7%で最も高くなっています。



③世話の内容（問16の「1」～「6」の選択者）

【問18/MA】

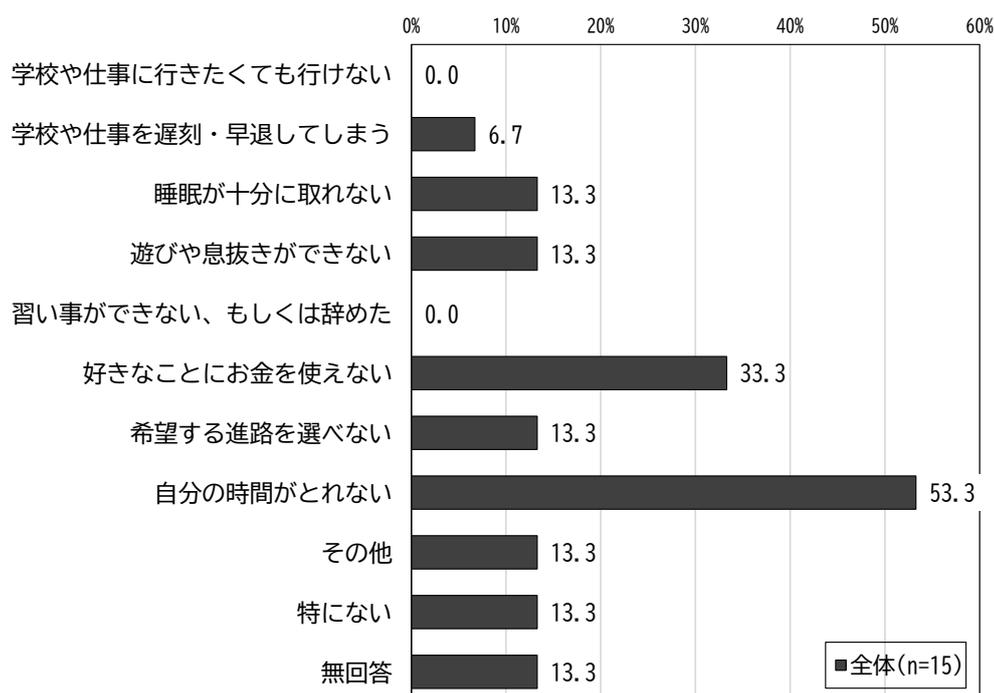
- 「家事」と「見守り」がともに33.3%で最も高く、次いで「外出の付き添い」（26.7%）、「病院の付き添い」と「感情面のサポート」（ともに20.0%）と続きます。



④世話をしているために、やりたいけどできないこと（問16の「1」～「6」の選択者）

【問19/MA】

- 「自分の時間がとれない」が53.3%で最も高く、「好きなことにお金を使えない」（33.3%）と続きます。

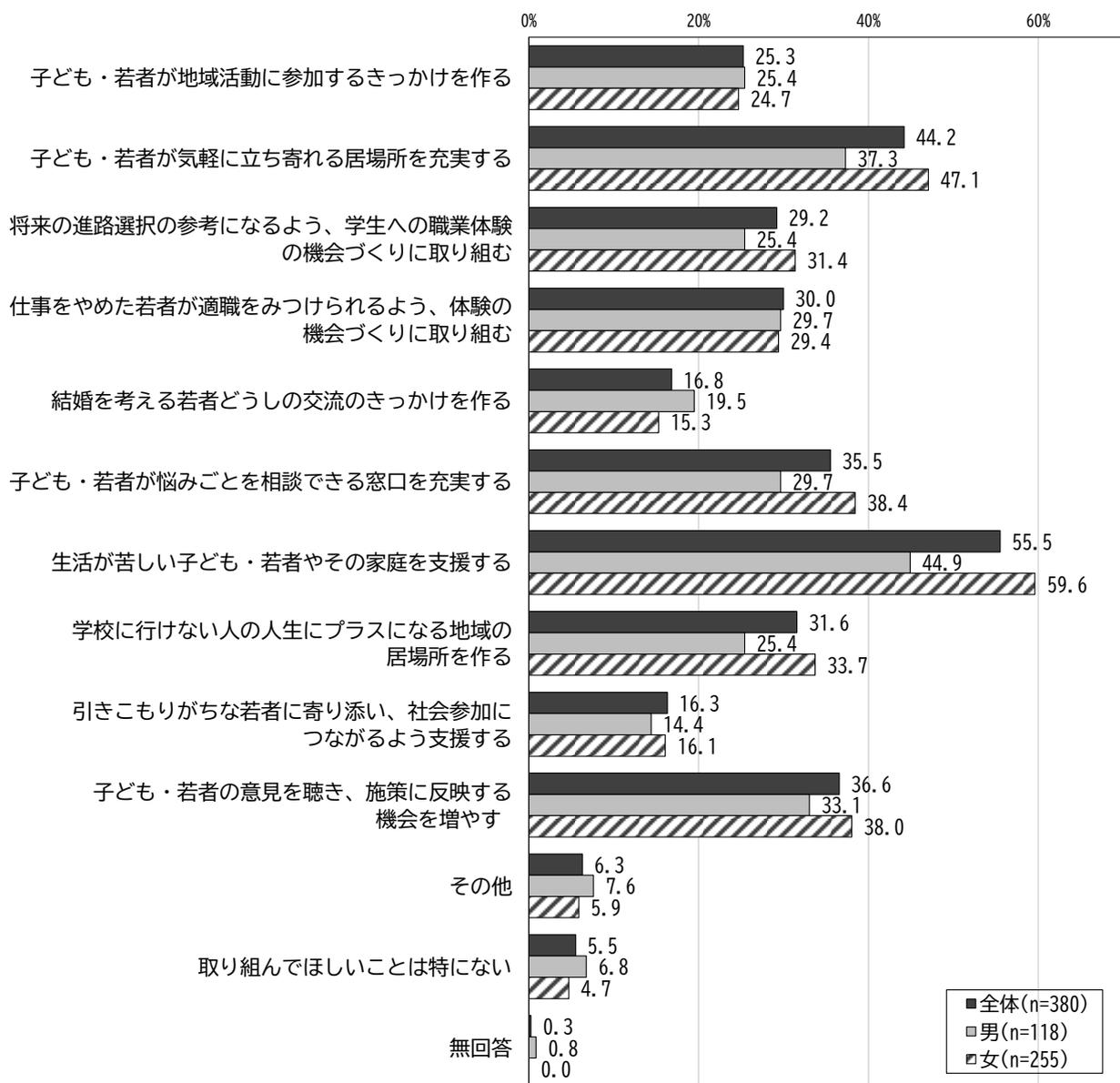


## 7 子ども・若者への支援について

### ①行政に取り組んでほしい子ども・若者への支援

【問20/MA】

- 「生活が苦しい子ども・若者やその家庭を支援する」が55.5%で最も高く、次いで「子ども・若者が気軽に立ち寄れる居場所を充実する」(44.2%)、「子ども・若者の意見を聴き、施策に反映する機会を増やす」(36.6%)、「子ども・若者が悩みごとを相談できる窓口を充実する」(35.5%)、「学校に行けない人の人生にプラスになる地域の居場所を作る」(31.6%)と続きます。
- 性別では、男女ともに「生活が苦しい子ども・若者やその家庭を支援する」が最も高く、特に“女”(59.6%)が“男”(44.9%)に比べ14.7ポイント高くなっています。次いで男女ともに「子ども・若者が気軽に立ち寄れる居場所を充実する」と続きます。



- 年齢別では、どの年齢区分も「生活が苦しい子ども・若者やその家庭を支援する」が最も高く、特に“20～24歳”（60.8%）と“25～29歳”（60.0%）は6割と高くなっています。これ以外で4割以上の要望の高い取り組みは、“15～19歳”と“25～29歳”、“30～34歳”の「子ども・若者が気軽に立ち寄れる居場所を充実する」、「20～24歳」の「仕事をやめた若者が適職をみつけられるよう、体験の機会づくりに取り組む」、「30～34歳」の「子ども・若者が悩みごとを相談できる窓口を充実する」となっています。

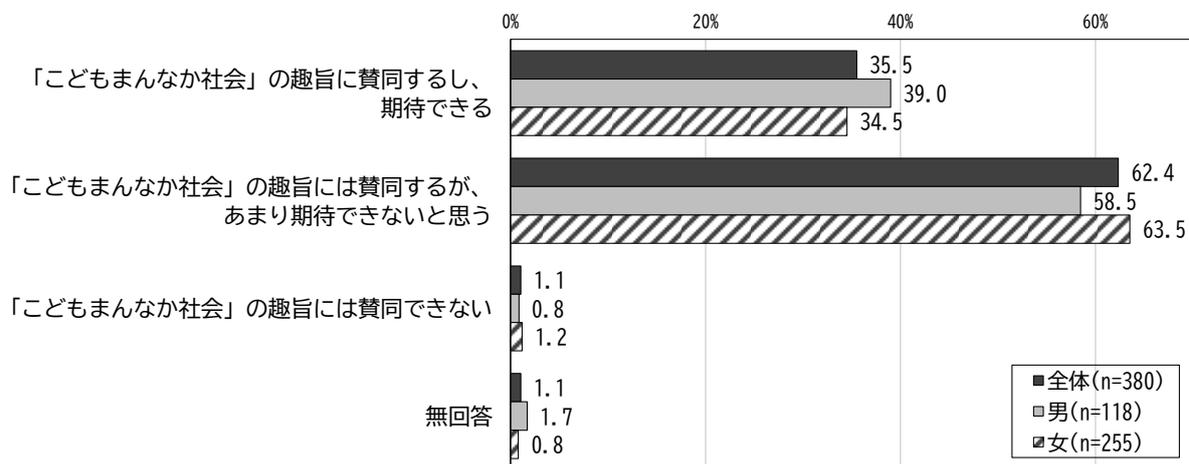
		問20 行政に取り組んでほしい子ども・若者支援													
合計		子ども・若者が地域活動に参加するきっかけを作る	子ども・若者が気軽に立ち寄れる居場所を充実する	将来の進路選択の参考になるよう、学生への職業体験の機会づくりに取り組む	仕事をやめた若者が適職をみつけられるよう、体験の機会づくりに取り組む	結婚を考える若者どうしの交流のきっかけを作る	子ども・若者が悩みごとを相談できる窓口を充実する	生活が苦しい子ども・若者やその家庭を支援する	学校に行けない人の人生にプラスになる地域の居場所を作る	引きこもりがちなら若者に寄り添い、社会参加につながるよう支援する	子ども・若者の意見を聴き、施策に反映する機会を増やす	その他	取り組んでほしいことは特にない	無回答	
全体	380 100.0	96 25.3	168 44.2	111 29.2	114 30.0	64 16.8	135 35.5	211 55.5	120 31.6	62 16.3	139 36.6	24 6.3	21 5.5	1 0.3	
問2 年齢	15～19歳	80 100.0	16 20.0	32 40.0	22 27.5	20 25.0	15 18.8	18 22.5	39 48.8	20 25.0	16 20.0	27 33.8	2 2.5	10 12.5	1 1.3
	20～24歳	74 100.0	16 21.6	29 39.2	17 23.0	30 40.5	10 13.5	28 37.8	45 60.8	24 32.4	8 10.8	26 35.1	6 8.1	4 5.4	0 0.0
	25～29歳	95 100.0	26 27.4	46 48.4	30 31.6	28 29.5	17 17.9	36 37.9	57 60.0	26 27.4	11 11.6	37 38.9	7 7.4	3 3.2	0 0.0
	30～34歳	129 100.0	38 29.5	59 45.7	40 31.0	36 27.9	22 17.1	53 41.1	68 52.7	49 38.0	26 20.2	49 38.0	9 7.0	4 3.1	0 0.0
	その他・答えたくない	2 100.0	0 0.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

## 8 「こどもまんなか社会」への意識について

### ①「こどもまんなか社会」を目指すことについて

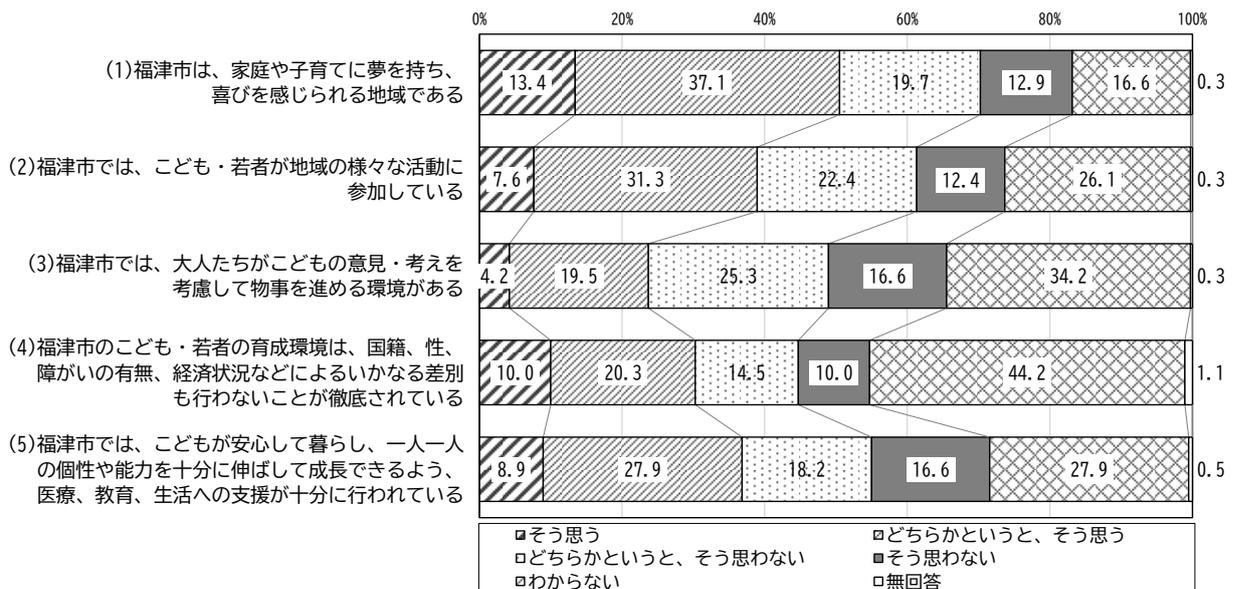
【問21】

- 「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するが、あまり期待できないと思う」が62.4%で最も高く、「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するし、期待できる」が35.5%で、『趣旨に賛同する』は合わせて97.9%にのびります。一方、「こどもまんなか社会」の趣旨には賛同できない」が1.1%となっています。
- 性別では、男女ともに「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するが、あまり期待できないと思う」が最も高く、“女”（63.5%）が“男”（58.5%）に比べ5.0ポイント高くなっています。また、「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するし、期待できる」は“男”（39.0%）が“女”（34.5%）に比べ4.5ポイント高くなっています。
- 年齢別では、どの年齢区分も「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するが、あまり期待できないと思う」が最も高いものの、“20～24歳”は「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するし、期待できる」と大差ありません。



	合計	問21 「こどもまんなか社会」を目指すことに対する考え			無回答	
		「こどもまんなか社会」の趣旨に賛同するし、期待できる	「こどもまんなか社会」の趣旨には賛同するが、あまり期待できないと思う	「こどもまんなか社会」の趣旨には賛同できない		
全体	380	135	237	4	4	
	100.0	35.5	62.4	1.1	1.1	
問2 年齢	15～19歳	80	29	49	0	2
		100.0	36.3	61.3	0.0	2.5
	20～24歳	74	36	37	1	0
		100.0	48.6	50.0	1.4	0.0
	25～29歳	95	29	63	2	1
		100.0	30.5	66.3	2.1	1.1
30～34歳	129	41	86	1	1	
	100.0	31.8	66.7	0.8	0.8	
その他・答えたくない	2	0	2	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

- 「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』は、【(1)福津市は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる地域である】が50.5%で最も高く、次いで【(2)福津市では、こども・若者が地域の様々な活動に参加している】(38.9%)、【(5)福津市では、こどもが安心して暮らし、一人一人の個性や能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援が十分に行われている】(36.8%)、【(4)福津市のこども・若者の育成環境は、国籍、性、障がいの有無、経済状況などによるいかなる差別も行わないことが徹底されている】(30.3%)と続き、これらは「どちらかというと思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』に比べそれぞれ高くなっています。また、【(3)福津市では、大人たちがこどもの意見・考えを考慮して物事を進める環境がある】が23.7%で最も低く、これは『そう思わない』(41.9%)が高くなっています。
- 性別では、男女ともに『そう思う』は【(1)福津市は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる地域である】が最も高く、“男”(54.2%)が“女”(49.4%)に比べ高くなっています。一方、『そう思わない』は、男女ともに【(3)福津市では、大人たちがこどもの意見・考えを考慮して物事を進める環境がある】が最も高く、“男”(40.7%)と“女”(42.0%)が大差ありません。また、『そう思う』は【(4)福津市のこども・若者の育成環境は、国籍、性、障がいの有無、経済状況などによるいかなる差別も行わないことが徹底されている】以外の4項目は“男”が“女”に比べ高くなっています。
- 年齢別では、どの年齢区分も『そう思う』は【(1)福津市は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる地域である】が最も高く、“20～24歳”(58.1%)と“15～19歳”は5割を超えています。一方、『そう思わない』は、“25～29歳”では【(2)福津市では、こども・若者が地域の様々な活動に参加している】が、他の年齢区分は【(3)福津市では、大人たちがこどもの意見・考えを考慮して物事を進める環境がある】が、それぞれ最も高くなっています。



福津市のこども・若者の育成環境に関する認識	全体 (n=380)		男性 (n=118)		女性 (n=255)	
	そう思う	そう思わない	そう思う	そう思わない	そう思う	そう思わない
(1)福津市は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる地域である	50.5	32.6	54.2	26.3	49.4	35.3
(2)福津市では、こども・若者が地域の様々な活動に参加している	38.9	34.8	44.9	30.5	36.5	36.9
(3)福津市では、大人たちがこどもの意見・考えを考慮して物事を進める環境がある	23.7	41.9	28.8	40.7	21.6	42.0
(4)福津市のこども・若者の育成環境は、国籍、性、障がいの有無、経済状況などによるいかなる差別も行わないことが徹底されている	30.3	24.5	30.5	22.9	31.0	24.3
(5)福津市では、こどもが安心して暮らし、一人一人の個性や能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援が十分に行われている	36.8	34.8	40.7	30.5	35.7	36.9

福津市のこども・若者の育成環境に関する認識	15～19歳 (n=80)		20～24歳 (n=74)		25～29歳 (n=95)		30～34歳 (n=129)	
	そう思う	そう思わない	そう思う	そう思わない	そう思う	そう思わない	そう思う	そう思わない
(1)福津市は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる地域である	55.0	31.3	58.1	20.3	45.3	40.0	47.3	34.9
(2)福津市では、こども・若者が地域の様々な活動に参加している	50.0	33.8	48.6	28.4	27.4	42.1	35.7	32.6
(3)福津市では、大人たちがこどもの意見・考えを考慮して物事を進める環境がある	27.5	42.5	31.1	37.8	24.2	38.9	16.3	45.7
(4)福津市のこども・若者の育成環境は、国籍、性、障がいの有無、経済状況などによるいかなる差別も行わないことが徹底されている	41.3	21.3	35.1	24.3	31.6	24.2	20.2	25.6
(5)福津市では、こどもが安心して暮らし、一人一人の個性や能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援が十分に行われている	43.8	35.0	50.0	25.7	33.7	36.8	27.9	37.2

本調査では、84人から次のような分野別意見等が105件寄せられました。

## 1 教育・学習支援について（17件）

- 小～高校生くらいの子どもたちを、海外に連れて行けるような教育プログラムをやってあげてほしい。幼少期の海外経験は本当に価値観が変わる。市がそこに税金を使うなら頑張って納税して応援する。(福津市オリジナルクラウドファンディングとかしてもいいかも?)
- 子どもが様々な経験・体験をすることが、将来の仕事や今の幸せにつながると思います。しかし、今の福津市の状況で学校生活を充実させることは現実的には難しいと思うため、学校外でそのような場(行政だけでなく民間企業や市民団体が協働で)がもっと増えればいいなと思います。
- 子どもに対するSNSの使い方などの指導をもっと強化すべきだと思います。
- 無料で勉強できる環境もない。古賀のリーパスのように勉強できる場所がほしい。
- 以前福間駅にあったエンゼルスポットのような、学生が勉強できる施設を増やして欲しい。フクスタがあるが高校生までしか利用できず、大学生が気軽に勉強できるような所がない(かといってコワーキングスペースを借りれるようなお金も社会人ほど持ち合わせていない)ので、例えば千早にあるなみきスクエアのような施設を作って欲しいと思う。
- 自主学习が出来るような静かな環境の施設ができてほしい。
- 教育長が不在という不安定な行政では何も期待できない。
- 教師に見本となる人がいない。子供にスマホを禁止して、自分は授業中でも扱う。授業中に自分や子供、教え子の雑談ばかりする。
- 福津市では子供の人口が増加傾向にあり、学級や保育園が足りないと聞きます。新しい小学校の建設が進もうとしていますが、地盤がよくないと聞きました。市民の意見をよく聞き、将来のことを考えて賢明な判断で私たち市民を導いてほしいです。
- 私自身に直接は関係ないが、小学校と中学校をできるだけ災害時でも安全で、子供たちが登校しやすい場所に早く建設してあげてほしい。
- 福津市は急激に人口が増えて、学校がパンク状態。先生も余裕がないのか、質が悪い。それで学校は怖いと不登校になりました。子供は未来です。小学校のうちに心を潰されて、何のために学校ってあるのですか？学校のあり方を見直してほしいです。
- 福間中学校は生徒数が多く悪い噂しか聞かないし学力レベルも低い。親の都合で福津市に住んでいるが、福岡市内に通学しているので福岡市内に転居したい。将来的に首都圏の大学、就職を考えているため、福津市の若者の育成支援に自分自身のメリットを感じられない。それに過大規模校、新設小学校の盛土問題など失敗だらけで何も改善されない。身近な問題も放置し後手後手の対応しかできないのに新たな施策って?? SNSでも言ってるけど『福津市やばい!!』
- 一番、心配なのは過大規模校での学校生活。十分な教育、体験が受けられず制限されていると感じる。
- 新学校が出来てもマンモス校に変わりはない、子どもたちが外で遊ぶことも日によって制限され可哀想。
- 学校を増やしてほしい。
- 私はもう学校には無縁になりましたが、福間南小や福間小、福間中学校の人数の増加に驚いています。想定出来たはずと思いますが、学校設立の時期があまりに遅すぎると思います。今からの設立ではもう間に合わないのではないのでしょうか？
- こどもの人口が増えている校区とそうでない校区で、教師1人当たりの生徒数によるものなのか、教育の質に差があるとの噂を耳にするが、そのようなことにならないようにできたらと思います。

## 2 経済的支援について（16件）

- 古賀市や他の市では医療費無償化が進んでいるが、福津市は子供が多すぎるのか市長の決断不足が全く話にならない。毎年の1家庭1万のふれあい市場で使える券ではなく、以前していたような1人1万のギフトなどにしてほしい。行くのが大変。1万では足りない。
- こどもまんなかと言う割に、医療費の助成もないのはおかしい。
- 子育ての補助を手厚くしてほしい。（医療費免除を福岡市と同レベルに）
- 医療費無償化してほしい。
- 医療費を高校生まで無料にする、など古賀市もやっています。子どもを一番に考えて動いてほしいです。
- 子どもの医療費無料の対象年齢を延ばしてほしい。他の自治体で国が定める以上の支援をしているところがたくさんあり、うらやましいなと思います。
- 福岡市、古賀市等は子どもの医療費が18歳まで無料になるなど積極的に子育て世代への援助があるが、福津市はそういう面で遅れていると思う。経済的な援助というだけでなく、子どもが躊躇せず必要な医療を受けられるという点で必要だと思う。
- 宗像市や古賀市は、保育園第二子の無償化などがあると聞いたが、福津市は子供が多い割には、そういった政策がない。そこが不満です。
- こども真ん中と言いながら、小さい子に厳しいなと思うことが多々ある。飲食店然り、行政然り。まずは保育料を下げることで、かなり子ども二人目を考える人が増えると思う。
- 保育所の子ども2人目以降無償化、オムツやお尻拭きなどの配布。
- 進路を決める時に、お金がかかることが心配です。大学まで親の所得に制限なく支援してほしいです。
- 高校無償化(対象外になっている家庭)を支援してほしい。多子世帯にも関わらず、無償化対象外の多子世帯は親の負担が大きいです。小中学の給食費の無償化も取り入れてほしい。
- ひとり親家庭で育ち、祖母は認知症で見守りが必要です。そんな中進学したが、祖母の見守りや学校で思うようにバイトができず、家庭的にも金銭の余裕がなく、学費の支援をしてくれるような制度があったらいいと思う。
- 教育にかかる費用を可能な限り無償化したい場合、使える財源って何がある？これまでやってきてる何かしらの取り組みと上手く“やめかえ”て現役世代の子育てモチベを少しでも上げられないか？
- 子供のいる家庭に支援金を配布してくれるのは嬉しいが、夫の口座に入り趣味のギャンブルに使われ子供や妻には一銭も渡っていない家庭がある。という現状をもっと考えて欲しい。子育て箱のような、もう少し母親にダイレクトに届く支援がほしい。
- 私は雇用が正規職員ではないため、妊娠出産をすれば仕事を辞めないといけません（育休がないため）。また、出産後正社員として雇ってくれるところがあるかもわからないし、なれたとしてもフルタイムで働いていけるのか不安です。たぶん短時間勤務になると思います。そうになると、経済的に不安が残り、子どもはとっても欲しいですがなかなか妊活に踏み込めません。経済的に不安はあるけれど、子供のために仕事を辞めざるを得ない、または短時間にせざるを得ない女性はたくさんいると思います。養う人数は増えるのに収入が減るのでは少子化は進んでいくと思います。1人目を産む勇氣、2人目3人目に踏み込む勇氣、そこは経済的余裕がとても大きな影響を及ぼすと思います。福津市がどうかではなく国全体の課題だろうと思いますが、福津市独自の経済的支援があればとてもとても助かります。出産を機に退職しなければいけなくなった女性に対する就職までの1年間の補助金やママの就職支援、ぜひお願いします。希望がもてます。

### 3 保育所、幼稚園について（12件）

- 子どもの数に対して保育園が少なく働きに出にくいです。
- まず保育所や学校を増やしてほしい。
- 保育園が少ない。
- 福津市で今後も子育てしたいとは全く思わない、幼稚園すらも抽選(他の地域では聞いたことない)、保育園の待機児童は半端なく、正社員フルタイムでも落とされる。
- 福津市では子供の人口が増加傾向にあり、学級や保育園が足りないと聞きます。
- 発達支援が必要な児童が安心して通える保育園や幼稚園が少ないように思う。(グリーンゾーン含む) 土地柄がのどかで好ましく思っているが、唯一体制が確保されている市立保育園さえ無くそうとしていることや、待機児童も多いままなので、3人目の妊娠に悩んでいる。
- 認可保育所の使用済みオムツの持ち帰りを廃止して欲しい。国から通達が出ているはずだが数年経っても導入されない。オムツの持ち込みも記名が負担なので手ぶらで登園プロジェクトを導入して欲しい。働いているから保育園を利用しているので保護者の負担を軽くする取り組みをお願いしたい。
- 保育園は落選し、働きたくても制限される環境をどうにかしてほしい。
- とにかく待機児童を解消してほしい。母親が、何歳からでも預けたいタイミングで子供を預けることができるようになってほしい。もし保育園に受からず、私が働けなくなったらと考えると絶望しかない。子育てのしやすい町づくりをするなら、まずは待機児童解消からだと思う。
- 子育て世帯やこどもの人口は増加しているように思うが、それに対する支援や対応が追いついていないように思う。保育園も同じような状況にあると思う。企業主導型を含めれば園の数自体は増えているのかもしれないが、保護者の立場からすると必ずしも安心して預けられるところばかりではないと思う。認可園のように市の管理が行き届く園を増やしてもらい、もっと保護者に選択肢を与えてほしい(現状では空きがないとばかり言われて、選ぶ余地すらないように感じる)。
- 保育園に入所しづらい。共働きでなくても子を預けられる施設・サービスが欲しい。
- 東福岡に住んでいますが、病院や保育園施設が少ない。一時的に預かる場所などもあれば嬉しいです。発達障害をもつ子供を育てていますが、保育園などの教育の施設に、専門の方が派遣で相談指導や講習などもあれば良いなと感じます。

### 4 子どもの遊び場、居場所、イベントについて（12件）

- 遊び場所も少なく子供が溢れかえっている。
- 子どもの人数は多いのに、支援センター以外に遊べる場所がないので、有料でもいいので創設して欲しいです。
- 子どもが遊べる施設や大きな公園が少ない。
- 子供が遊べる施設を充実させる。
- 遊べる公園が少ない。
- 駅にあったフリースペースも、シェアオフィスになってしまって、気軽に集まることもできない。
- テーマパークをつくる。
- 小さな子供も参加できる体験型イベントがもっと増えて欲しい。
- 不景気だからこそ、家庭的に貧困になる世帯も多いから、お金がかからず、子供が遊べる場や何か体験できる機会を使って満足度が上がるとよい。
- 小学生が遊べる場所がどんどん減っている。暑さや寒さが年々厳しくなっているので、フクスタをもう少し充実させるなど力を入れて欲しい。例えばフクスタで何か体験ができる、体を動かせる(ボルダリングとか)など。
- 宗像市はむなかた子ども大学を催し将来何をしたいかを早い時期に学べるのが羨ましいと思いました。福津市も似たようなイベントがあれば将来就きたい職業が自分に会っているのかや、こんな仕事もあるんだなど早い時期に何を学べば良いかなど目標を立てる事が出来ると思います。

- 2歳の娘がいます。支援センター「なかよしルーム」を高頻度で利用させてもらっています。福津市民のみの利用にとっても賛成です。少人数の受け入れなので、職員の先生に顔と名前を覚えてもらっていて、いつ行っても笑顔で温かく迎え入れてくれます。また、「あいあいタイム」「ともだちタイム」等楽しいイベントも準備してくださり職員の方には頭が下がります。このおかげで、「親子で行きたい場所」になっています。これからも利用させていただきます。いつもありがとうございます。

## 5 こどもまんなか社会について（11件）

- まだ人間としての成長段階にある子供の意見を全面的に政策に反映させることにはリスクがあると思います。やはりある程度の年長者の介入が必要であると思います。また、子供の意見を政策に反映させるよりも、待機児童や虐待、ヤングケアラーなどの若者や子供に対する支援や救済を優先させるべきと考えます。
- 大人も子供の意見、意思をしっかり聞き入れて平等に接して欲しい。いじめや差別等、間違っていることをきちんと大人が言わないとまだまだ世の中は悪いままで、言わなくても良いようになって欲しい。定期的にそういう事を学ぶ機会が設けられたらと思う。(学校だけでは学生時代にしか学べない為、大人も認識を改めるために学んで欲しい。そうすれば、人との向き合い方も良くなると思う)(大人も国籍を理由に外国の方を差別しているように感じる為。←子供は大人を見て育つと言われる様に、こういう面を見せているから子供も真似をしているんだと思う。悪影響であると思えない)
- 「こどもまんなか」のネーミングがいかに年配者のセンスでちょっと気持ち悪いかも。
- 定義を読む限り、とてもいい政策だなあとと思いますが、本当にそれが実現しているのか実現するか期待できません。こどもまんなか社会にするために、問題に対してどのように取り組むのか、何が課題なのか、そのために何をするのかをはっきりさせ、実現のために具体的に組み込まないといけないと思う。
- 「こどもまんなか社会」という政策については、お恥ずかしながら初めてお聞きしたんですが、とても素敵に行いだと思います。若者や子供を過剰に保護するわけでもなく、阻害する訳でもない、地域社会の一員として分け隔てなく扱おうという意味が含んだ「まんなか」という言葉が特に素敵だなと感じました。
- 公園などでボール遊びを禁止しているのに驚きを覚えます。どうせ近隣住民がうるさいなどの苦情を言うのだろうが、子どもが遊ぶ場所を削り、家でゲームばかりして活発な子どもの良さを抑制するはおかしいと思う。子どもの声や遊びの音すら許容できない大人に問題があり、こどもまんなか社会なんてものを実現できるとは思わない。
- 自分のうちの子で精一杯、他所のうちの子のことを考えている余裕はない。こどもまんなか社会、子育てや子どもの育ち、若者の育成支援など名ばかり。
- 対象になったことがこれまでであるようには感じていないし、福津市の実情を詳しく知らないのでもなんとも言えないけど、もしそのような支援をすすめていくのなら、困っている人を助けて欲しいし、なにかあれば協力したいと思うのでぜひ頑張ってください。
- 今は、こども真ん中になっていないと思う。大人が働きやすいようにこどもを我慢させる政策だと思う。もう少しこどもに寄り添って欲しい。
- 福津市は子供が増える一方なので、福岡市の様に子供に手厚い支援を行ってほしい。
- 子ども真ん中は言葉ばかり、やってますアピールばかり。

## 6 行政全般について (10件)

- 年齢別の人口割合を考えると、行政に対してはどうしても票の多い世代の意見が通るので、子育て特区や教育重点エリアを積極的に設けてみるとかどう？一村一品じゃないけど福津のグルメと言えばなんなの？ラーメン？松が枝餅？なにがある？将来子供たちが困らないように、人口減少しても回る社会づくりを早めにやり始めといてほしい。人のいるうちに。
- 急激な人口増に、社会インフラが追いついていない。病児保育、保育所の整備、小学校など。
- 若者がどうのこうのより、上が変わらないと何も変わらない。
- まず、福津市に希望が持てない。折角交通の利便がよく、子どもの人口も他の地域に比べて多い方にも関わらず、産業を発展させようとしなない。病児保育も少なく、予約をとる事が難しい。意見が出て、あやふやのままにして時を去っていくのを待っているのが丸見え。はっきり言うと、この平穩を維持するだけでただのベッドタウン。海と宮地嶽神社で糸島に張り合おうとする行為が烏滸がましい。このままだと、隣の古賀市の方の政策が良いとって人が流れる可能性だってある。もう少し福津市の特色の活かした産業を大々的に福津市全体で盛り上げたり、子育てがしやすい町になるような政策を反映するように、子どもだけではなく大人にもアンケートを取ったりした方がいい。(まず、福津市のふるさと納税の品物で魅力的なものが少ないので、そこから改善するなど) 福津市は、豊かな環境、そして人口にも恵まれているのに、その魅力を活かしきれてないことが本当に情けない。どうせ福岡県で旅行するならここは絶対、という観光地も少ないのだから、福津市がそれを目指すのだっていい。見るだけ見てどうせ行動に移さないだろうと甚だ期待していないので、好き勝手に書かせていただきました。自分の意見を伝えるという行為こそが、やっとなら不満を持つことができるようになるので。これは、今年成人した人によるひとつの意見です。
- 地元が好きなので地元に残ってはいるが、やはり田舎が蔑ろにされていると感じる。
- 移住してからあまり時間が経っていないことから福津市がどのような政策を行っているのか、不明な点が多くあるが、生きづらさを感じている子供や若い人が社会の役に立つことが出来たり、幸せを感じることができる世の中になれば未来は明るいと思う。
- 子ども達の人数に対して小児科、保育園、学校は少なく とても不自由している。そこに就職してるが、みてあげたいけどみれないジレンマ。なぜ、みてくれないのかとクレームもくる。全部人が増えたせい。全部は見れない。こちらにも家庭があるため帰ってから家の仕事。キャパというものがある。職員は少ない中、疲れ果て、子達は十分な支援を受けられない。自由に遊べない。なぜこんなに人を増やしたのか。生活が窮屈でたまらない。建物や人を増やせばいいだけの話しじゃない。何十年先、今いる人達がずっとここに留まってるわけじゃない。空き家問題も出てくるかもしれない。そうなった場合そこに税金を使うのか？住み良い町をうたってるが全然住み良くない。
- 古賀や福岡市の人は高校生まで病院や歯医者が安いと言っていた。福津市は今のままでは子供が減っていくと思う。せっかく住みやすい街に選ばれているのにもったいないと思う。子供のことをもっと考えて、まちづくりをした方がいいんじゃないかと思っています。
- 子供の施設が足りなさすぎる。
- 年金、医療費負担、介護保険、高齢者ばかり優遇され、物価上昇する中、可処分所得は減るばかり。若い子ほど将来の負担ばかりで、将来が見えない。高齢者も公平に負担して欲しい。親の援助がなければ、余裕ある生活、結婚子育ても無理。今は良くて、大した企業もなく福津市も将来、高齢者多数自治体になり、大変なことになりそう。

## 7 子育て支援について（8件）

- 宗像市が始めた病児保育の送迎を福津市も始めて欲しいです。住民税があがっても構いません。もっと子育て世帯に寄り添った、本当に必要なことを始めてほしいです。そうすることがこどものためになると思っています。
- 託児サービスなどは一切充実していない。母親への支援、子供への支援もない。その点宮若市はお金を払えば託児(給食やおやつ付き)してもらえる施設があると聞きとても羨ましいし、引越しも検討している。
- 子どもを中心とする社会であれば、少子化対策の一環として子育てにお金がかからないこと(できるだけ普段が少なくなるようなサービスや現物配布)を期待したい。 ※明石市の泉前市長の政策は子育て世帯にとってとてもありがたい。福津市は立地上、福岡市や北九州市のベッドタウンとして子育て世帯の転入が多くなっていると思うが、人口増加していることにあぐらをかいて、近隣の古賀市や宗像市に比べて子育て政策に重点を置いてないと思われても仕方ないのではないか。もし福津市が人口減少地域であれば今の政策のままという訳ではないと思う。予算を言い訳にするのは簡単だが変えられるところはいくらかでもあるのではないか。
- 私自身も福津市で生まれ育ったが子育て環境は今の方が悪いと思う。隣の市では子育て支援がどんどん発達してるが福津市は全く。
- 子育て支援が充実してきてはいるがもっと子育て世代に支援できることがあるように思う。福津市に住みみ続けたいと思えるような支援と政策を期待したい。
- 近隣の市では園と病児保育施設間での送迎システムを検討していたり、高校生までの医療費の助成があったりと独自の支援が考えられているが、福津市ではそういったものが感じられない。
- 子育て世代が多くなってます。もっと魅力的な政策をだしてほしいです。引っ越しを考えてます。
- 子育て関連予算を増やすこと。子育て担当課の定数を増やすこと。

## 8 若者支援について（7件）

- 子育て世帯への支援はもちろんだが、子供を産める環境構築も重要だと思います。社会人1年目の給料は手取り16万円が現状で、結婚できない若者、子供を産むハードルが高すぎるのが現状です。そういった若者への支援もあると、子供が増えるのではないかと考えます。
- とにかく若年層の賃金が上がれば自然に解決していく課題は多いと思う。子供の数(産みたいのにお金のことを考えて産めない)、子どもの幸福度(お金があれば物が買える、様々な経験をさせられる)、回りくどい中抜き支援はいらぬ(婚活支援や謎のクーポン)、子どもや若者の幸福は賃金が上がれば勝手に上がる。こどもまんなか社会など考えているふりだけの活動は不要なので、手取りを増やしてほしい。そしてそれができないこともわかっているのに、自分が生きる事だけしか考えられず、少子化や無気力な若者も増えていくだけだと思います。
- こどもには、できる限り生まれた環境や家庭環境などで、将来の夢や選択肢や生き方を諦めるようなことはしてほしくない。そのためには自立している大人(単身や子供なし含む)が、自分の生活が成り立つ範囲での金銭的な支援(税金や寄付など)も仕方ないと思う(ただし、使用目的が明確なものに限る)。また、こどもにとって「家庭」「近い友人」などのごく狭いコミュニティのみで価値観を養うのではなく、地域の大人や同世代など多種多様な考えの人と多く触れ合い、小さい頃から様々な価値観に触れて欲しいと思う。言葉を選ばずに端的に言うと、こどもは生まれる場所を選べないので、親ガチャ失敗などの理由で自分の将来を諦めないで済む社会が望ましい。プライバシーの保護と地域や世代を超えての交流の両立は困難なことも理解するが、長く啓蒙し、地域や国全体でこどもを支援する体制を整えるほかないと感じる。
- もう少し若者に対しての政策を行ってほしいです。
- 若い子が楽しいと感じる店や施設が少ないように感じる。 カメラアスエージの小さいカフェなどは良く思えるが、小さい・近くにあるのが歴史資料というのがネック。
- どのような交流手段があるのか分からない。

- 自ら情報をつかみにっていないのは申し訳ないですが、若者への育成について何を目標して、具体的に何をしているのか目にする機会がない。

## 9 保健・医療について（6件）

- 療育などのサポートが万全でないと感じる。診断のための予約も取りづらく待たされている人に今までたくさん出会ってきた。発達に関する療育は少しでも早く始めた方がいいという意見があるため親も焦ってしまうと思う。乳幼児検診のときにもっと相談しやすい雰囲気欲しい。保健師さんの方からもう少しつっこんで色々聞いてくれると相談しやすい。現行の状態では気になることありますか？→特にはないです。→では、終わります。のような流れ作業で気になっている気がするの、... 全ての母親は悩みの大小に関わらず何か、誰かに聞いて欲しいことがあると思うんです。でも大したことじゃないから、と心の中の小さなモヤモヤを無視しがちです。モヤモヤが小さいうちに、職員さんたちから前向きに聞き取る姿勢を感じる経験を得られれば、いざ、何かが起きた時に「市に相談してみよう」という考えが生まれると思います。勿論、自分自身が今まで出会った保健師さんたちはみなさん優しくいい人だったのですが、子どものことや家庭のことなど、本当は誰かに聞いて欲しいけど、そんなことも知らないなんてダメな母親と思われたらどうしよう、この人に話してもいいのか？子ども以外のことは相談したらだめかな？愚痴を聞いて欲しいだけなのに（悪い意味で）大きな問題にされたらどうしよう、など考えてしまい本当に聞きたいことは何一つ聞けずでした。ナイーブな産後の親と関わる立場として考えたら、もう一歩欲しいなあと思わざるを得ませんでした。事情を抱える子どもを支援するのももちろん大事ですが、やっぱり子どもは自分の親から愛されたい（手をかけられたい）と思います。安定した家庭環境を作り出すためには、なんだかんだやっぱり安定した母親が必要だと思います。母が崩れてしまう前の予防として、一歩踏み込んだ声かけ、すぐに相談できる環境があるということを知ってもらうことはとても大事なのではないかと思います。子どもを真ん中に置けるように、その子どもの親が安心して子育てに向き合えるような環境を作るための（経済的、仕事、人間関係など）補助役を市には期待します。
- 健康診断にメンタルヘルスを取り入れることも考えた方がいい。私の両親も虐待を受けていたので、いわゆる虐待連鎖の家庭であり家系であるが、両親はその治療を受けていない。定期検診でメンタル疾患に気づかせて医療機関に繋ぐことで連鎖を断ち切れる可能性が少しは高まるはず。
- 30歳以下でも手軽に健康診断をしたい。
- 小児科は朝イチにネット予約で50人以上待ち。
- 急患時や夜間対応可能な医療機関の拡充したほうがよいのではないかと思います。他市町村に比べて人口に対して医療機関が少なく感じます。
- 東福間に住んでいますが、病院や保育園施設が少ない。

## 10 虐待・いじめについて（2件）

- 両親や、時に祖父母から虐待を受けて育ったが見逃された。児童虐待が全てある家庭だった(身体、精神、性的、ネグレクト)。30年を棒に振ったが、努力し自力で何とか治療に漕ぎつけた。周りには医療や福祉に繋いでくれる人間は1人も居なかった。現在就労移行に通っているが、自由に使える金はないし、履歴書が紙クズ同然でろくな雇用もない。幼少期から虐待を受けて、成人してから後遺症で引きこもりになった人間が、一日一日を死なずに生き残るためにした努力を評価する基準がこの世界には存在しない。履歴書に書けない努力を努力として認めない世界で生きるのが本当に苦痛で、福祉や医療関係者と居ても、埋めようのない孤独感に苛まれている。今後虐待を受け人生をめちゃくちゃに壊される子どもが1人でも減るように、親になる人間への教育に力を入れて欲しい。子どもに関わる仕事には資格や訓練が必要にも関わらず、当の親本人だけは射精と出産の能力だけで親になれるのがおかしい(優生思想とは別)。定期的に親の再教育の機会を設ける必要がある。

- 従姉妹が小学生の時にいじめにあい、学校に行けなくなってしまった。その際担任の先生はしっかりと向き合ってくれたが、その上の方（教頭や校長）は向き合ってくれなかった。卒業生として、同じ大人として非常に残念だったし、とても腹が立った。未来のある子どもたちのことを考えるのであれば、自分の立場や役職を考えず、子どもたちに真摯に向き合う大人が増えてほしいと強く思っている。同じような体験をする子が福津市から一人でも多く減ることを願います。

## 11 アンケートについて（2件）

- ハガキで届いたアンケートに答える様な奇特もしくは市政に積極的あるいは暇な若者の答えが福津市の若者の総意であるとは思って欲しくない。育児で忙しければ、鬱で体調が悪ければ、職が変わったばかりで安定していなければ、二週間のアンケート期間に間に合わなかった若者も多くいるであろうことを認識しておいて欲しい。
- 学生（義務教育期間を含む）を対象にしたこのようなアンケートを学校を通して行うなど、自然と行政に学生が意見できるような取り組みを行ってほしい。

## 12 特にない（2件）